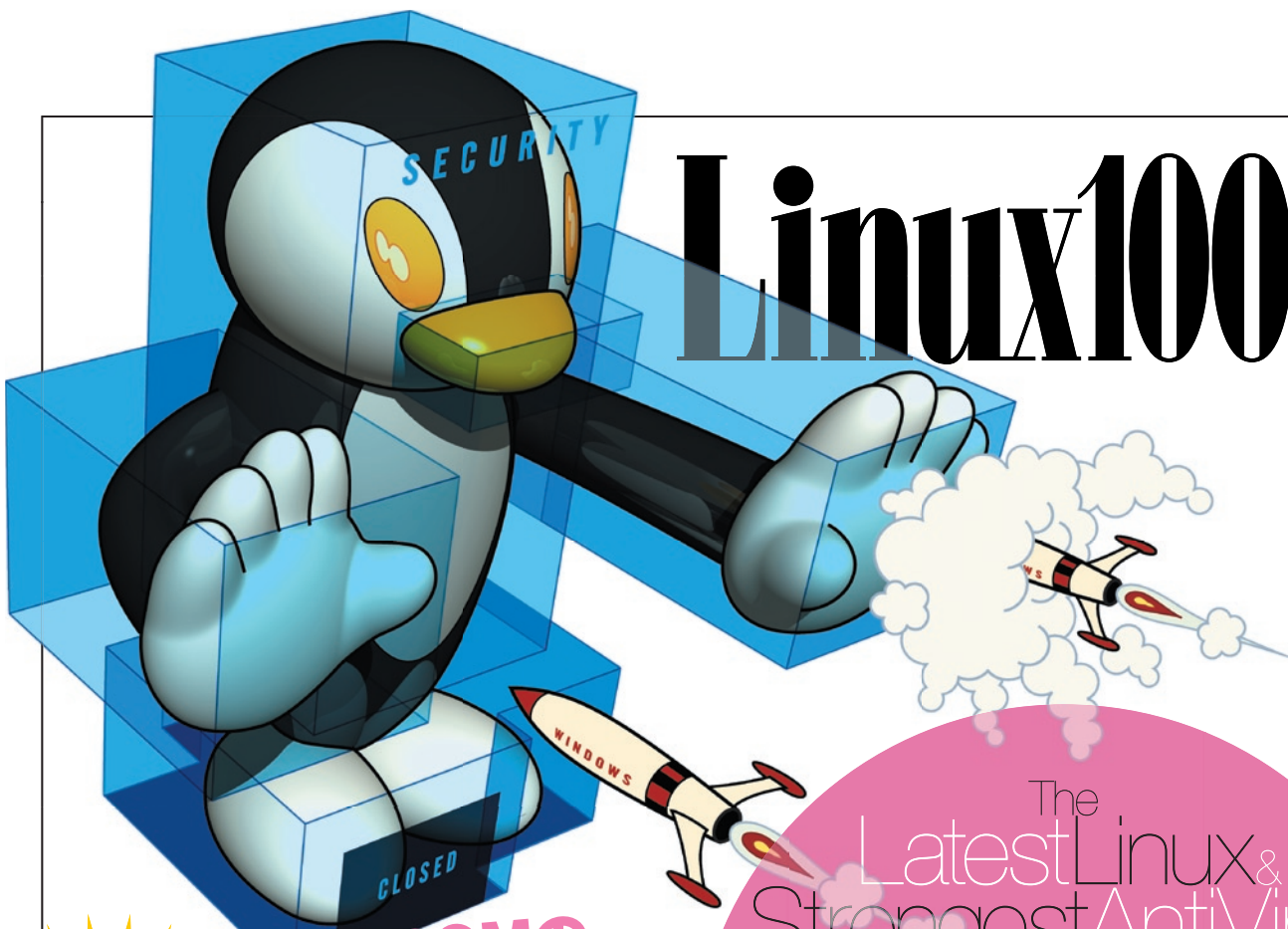
USB起動もOK! Win/Linux両対応の最強ワクチンソフト特別版を収録
遊んで学べる
Windowsユーザーのためのリナックス情報誌!
リナックス100%
Vol.8
Linux100%
100%ムックシリーズ
定価1,380円
The Latest Linux & Strongest AntiVirus
Ubuntu 9.04/8.10 & KNOPPIX 6.0.1 + G DATA Internet Security 2009
誌面と完全連動
Linux×3
ワクチン×1
マルチ起動
DVD
1 Application
Win/Linux 両対応
G DATAアンチウイルス
本誌スペシャル版
2 Distribution
話題の最新版
Ubuntu 9.04
&Ubuntu 8.10 &KNOPPIX 6.0.1
そんなPC環境で本当に満足?
総力特集
ハイレベル
OSレベルアップのノウハウが
コレ1冊ですべてわかる!
Linux入門
SECURITY
CLOSED
WINDOWS
知られざるディストリの数々を一挙公開!
最新Linux完全活用プロジェクト
3Dデスクトップが動くMac風ディストリビューション
Dreamlinux 3.5
安定&軽快のKDE環境で意外に使える伏兵ディストリ
Simplymepis 8.0
インテルが支援するAtom搭載ミニノート用のLinux
Moblin V2 Core Alpha2
複数のOS起動も自由自在に!
ブートローダー完全ガイド
インストールからウイルス削除まで完全対応!
ウイルス検出率99.9%の最強ツール!
DVD/USBメモリからの起動もOK!!
G DATA
インターネットセキュリティ 2009
Linux100% Edition
日本語Linuxの超定番はココで生まれる!
Ubuntu Japanese Team
直撃インタビュー
Win/Linuxの消失ファイルを取り戻せ!
PCデータレスキュー最前線
◉超高速のeSATAフラッシュからOSを起動!◉preload導入でソフト起動を激速化◉ROXやLXDEでデスクトップを軽快に◉ネット経由でデータを高速転送するGiver◉CompizFusionをタッチパネルで操作!?

# Linux100%

## DVD-ROMの使用前に必ずお読みください

### 【DVD-ROM使用前の注意点】

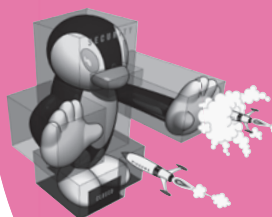
付録DVD-ROMについては弊社にて十分な起動・動作確認を行っておりますが、すべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。お客様のパソコンで起動しない場合、ディスク不良に起因する新品交換を除き、弊社では一切の責任を負うことはできません。

付録DVD-ROMおよび本誌記事により生じたいかなる損害・不具合についても、弊社で一切の責任を負うことはできません。あらかじめご了承ください。

本誌付録DVD-ROMを使用した場合には、以上の項目にすべて同意したものとみなされます。

本誌付録DVD-ROMから「Ubuntu」を快適に使用するには、お使いのパソコンが以下の条件を満たしている必要があります。

●メモリ512MB以上
●HDDなどインストール先のドライブに、2.5GB以上の空き容量

The Latest Linux & Strongest AntiVirus

DVD ROM Linux100%

Ubuntu 9.04/8.10 & KNOPPIX 6.0.1
+ G DATA Internet Security 2009
Powered by Ubuntu Japanese Team / LiveCD Room / G DATA Software AG
Linux100% ©2009 SHINYUSHA Pressed by Singapore

### 【本誌付録DVD-ROMの特徴】

本誌付録DVD-ROMは、ディストリビューション「Ubuntu 9.04」および「Knoppix 6.0.1」の起動ディスクとして、インストールすることなくLinuxの機能を利用できます。

また、DVD-ROM内には、「Ubuntu 8.10」「G DATAインターネットセキュリティ本誌特別版」のイメージも収録しています。CD-RやDVD-R、USBメモリに焼いてお使い下さい。

株式会社晋遊舎
「Linux100%」編集部

**Let's Enjoy!!**

# Linux100%

Vol.8 Contents


●付録DVD-ROM Navigation 4

●Ubuntu 9.04 ついに登場!! 6

巻頭特集 G DATAインターネットセキュリティ本誌特別版
●USBブートするアンチウイルスでPCを守る!! **8**

総力特集 ●ハイレベルLinux入門 **14**

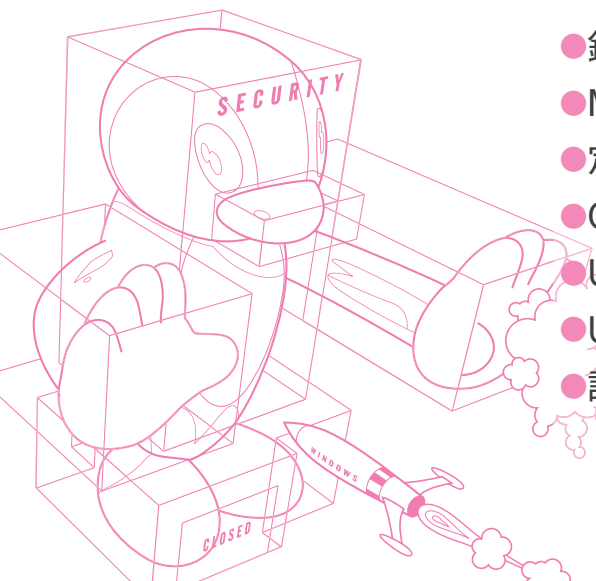
超高速ストレージで最強のLinux環境を作れ! 16
軽量環境に切り替えてサクサク動作環境実現!! 22
ショートカット&マウスジェスチャでソフトを一発起動!! 26
専用ツールなら環境構築が一括でできる!! 30
Eee PC+極小USBメモリでUbuntu 9.04 Netbook Remixを使う 34
軽量&高速ソフトで作業を高速化!! 36
Ubuntuで実現 最強メディアプレイヤー!! 40
Webベースで実現　あらゆるファイルをUbuntu/Mac/Windowsで共有!! 44
SilverlightをUbuntuで閲覧可能に!! 48
オープンソースで築くUbuntuセキュリティガイド 52
Eee Topのタッチパネル機能でUbuntuを操作できるのか? 58

●Linux Headline News 60

特集2 最新版ディストリを導入から活用法までフルサポート!
●最新リナックス完全攻略!! **62**

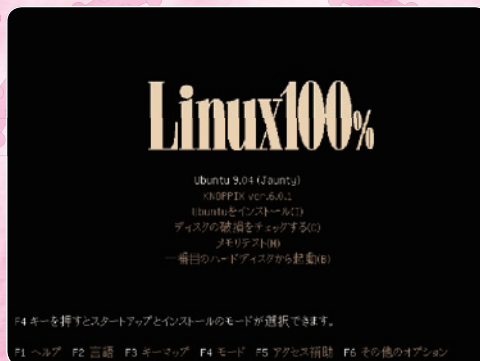
●鉄壁のデータレスキュー&バックアップ 76
●Mozilla最強化 86
●定番ツール裏・表 90
●GRUB野郎 100
●Ubuntu Japanese Teamに11の質問 106
●Ubuntu基礎講座 108
●読者プレゼント 115

# 本誌付録DVD

『Linux100%』vol.8付録ディスク

## 付録DVD-ROMからパソコンを起動した場合

### 1 DVD-ROMをパソコンにセット

本誌付録DVD-ROMをDVDドライブにセットした状態で、PCを起動する。HDDよりも先にDVDドライブから起動するように、BIOSを設定しておこう

### 2 専用の起動メニューが表示される

DVDの内容が読み込まれ、上の起動メニューが表示される。Ubuntuは一番上、Knoppixは二番目の項目をそれぞれ選択すること。

The Latest Linux & Strongest AntiVirus

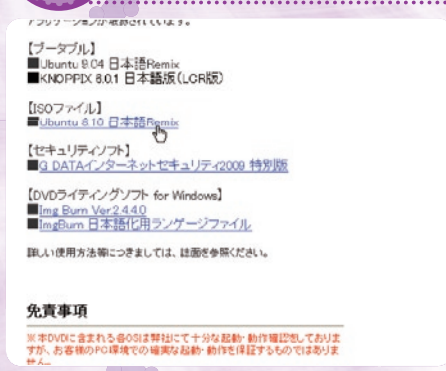
Ubuntu 9.04/8.10 & KNOPPIX 6.0.1
+ G DATA Internet Security 2009
Powered by Ubuntu Japanese Team / LiveCD Room / G DATA Software AG
Linux100% ©2009 SHINYUSHA Pressed by Singapore

注意!! 本DVD-ROMへの収録ディストリビューションはオープンソースという性質上、全PC環境での動作を保証するものではありません。

## 付録DVD-ROM内のデータを閲覧する場合

### 1 ブラウザでメニューが表示

Windowsを起動した状態で付録DVD-ROMをPCにセットすると、Webブラウザが起動して専用メニューが表示される。自動では表示されない場合もあるので、その際はROM内のindex.htmを開こう

### 2 任意の項目をクリックする

表示されたメニュー上から、利用したいディストリビューションやプログラムのイメージが収録されたフォルダへのリンクをクリックする

## ③ 専用のIDとパスワードでログインする

# KnoppixのHDDへのインストール

付録DVDに収録のKnoppixはブータブル仕様のため、そのままHDDやUSBメモリへのインストールを行うと起動できません。起動するには以下の手順の**どちらか一方のみ**を実行してください。

### ファイル名の変更

「vmlinuz」に変更する

付録DVDからのインストール終了後、「boot」フォルダにアクセスし、「vmlinuz-2.6.28.4」というファイルを「vmlinuz」と変更する。変更せずに再起動してしまった場合はライブDVDから起動して上記手順を行おう。この作業はUbuntuでも行える

### 起動メニューの変更

Knoppixの起動画面で「e」キーを押して起動メニュー画面を表示する

上下キーで表示された「kernel」で始まる行に移動し、再度「e」キーを押す

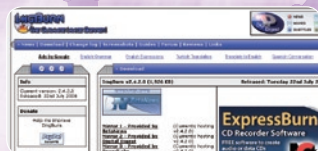
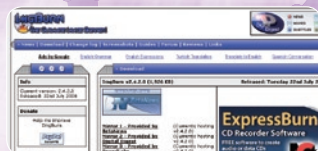
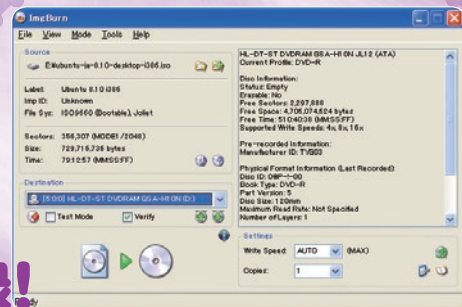
上の画面になり、枠で囲った行の修正モードに入るので、カーソルキーの左で行の先頭方向に移動し、「kernel /boot/vmlinuz」を「kernel /boot/vmlinuz-2.6.28.4」に変更。終了後は「B」キーを押してブートしよう

## ③ ISOイメージをパソコンにコピー

お目当てのISOイメージを、HDD上にコピーしておこう。ここからCD-Rに焼き込んだり、イメージのままマウントして利用したりといった使い方がある

## 多彩なLinuxディストリおよびG DATA2009のイメージを収録!

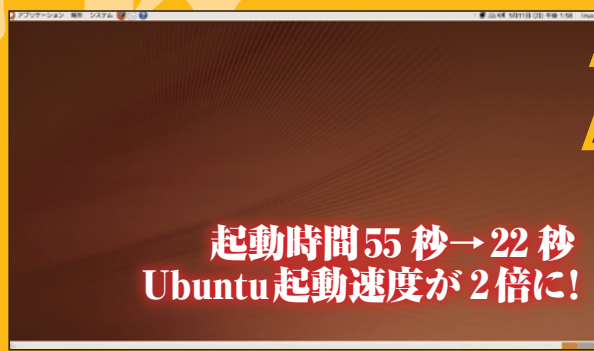
### Windows上でISOイメージをCD化するには?

UbuntuにはISOイメージのライティングツールがあらかじめ導入されているが、Windowsは標準設定ではISOをうまく扱えない。そこで、ISOイメージをCD-RやDVD-Rに書き込むためのツール「ImgBurn」をインストールしてみよう。各種ディストリのISOイメージをディスク化できるぞ。

公式サイトまたは付録DVD-ROMからインストーラを入手して、Windowsにインストール

ISOファイルを開き、書き込みドライブに空のCD-RまたはDVD-Rを挿入。あとはライティング

速報

# Ubuntu9.04

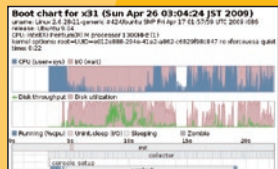
## さらに使いやすく、着実な進化を遂げたデスクトップLinuxの王者の風格

半年毎に新しいバージョンをリリースしているUbuntuが、4月23日に9.04をリリース。続いて翌日24日にはUbuntu Japanese Teamより、日本語Remix版がリリースされた。前回の8.10は比較的アップデート内容が地味な印象であったが、今回のアップデートでは起動時間の短縮にはじまり、細かい部分に至るまでユーザビリティを向上させる新しい機能が随所に織り込まれている。まさにデスクトップLinuxの王者としての風格を漂わせる仕上がりとなっているのだ!

**起動時間55秒→22秒**
**Ubuntu起動速度が2倍に!**

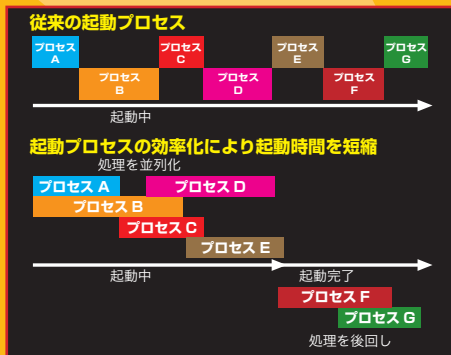
## 1 起動時間が大幅に短縮

Ubuntu9.04に搭載されたカーネルは、2.6.28がベース。その目玉のひとつに「Fast Boot」がある。Ubuntuの創始者であるマークシャトルワース氏が2月にメーリングリストに投稿した記事の中では、「Jaunty（9.04)での目標は、ネットブックを25秒で起動させる事であり、Koala（9.10）のデスクトップでは、さらにどれだけ速くできるかに全力を！」と呼びかけている。9.04の段階ですでに、高速SSDの搭載PCで起動時間7秒、という数値さえ叩き出しているのだ。

### 起動時間の比較

起動時間の計測は、「bootchart」というソフトで行うことができる（「sudo apt-get install bootchart」で導入可能)。すでに6年前のモデルとなるIBMのThinkpad X31（CPUはPentiumM 1.3GHz、RAM1GB、HDDはIDE 120GB）で計測してみた所、8.10では55秒要していた起動時間が22秒と、半分以下に短縮されている。

### 起動時間短縮のしくみ

9.04は起動プロセスを大幅に見直すことで、起動時間の短縮を実現している。特に、プロセスの並列処理化が時間短縮に果たしている役割は大きい（右図参照)。さらに、起動プロセスにおいて不要な処理を後回しにするのも合わせて、高速起動を実現しているのだ。

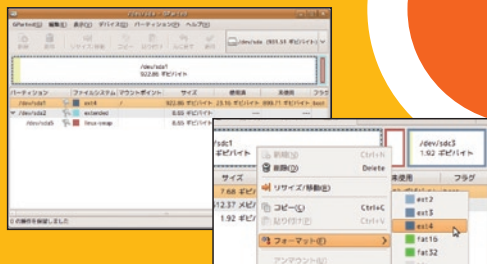
また、ログイン後の処理についても最適化が図られており、ネットワークの認識なども高速化を実現している。

## 2 マルチディスプレイ設定

実はUbuntuは、半年毎に新版がリリースされるデスクトップ環境“Gnome”の発表サイクルに合わせるようにして、次々と新しいバージョンをリリースしている。9.04に搭載しているGnomeのバージョンは、3月19日にリリースされたばかりの2.26。多くの改善が図られているが、なかでも「マルチディスプレイ設定」が最大の特徴だ。音楽・映像制作やDTPなどのクリエイティブ分野、証券・金融取引などではマルチディスプレイが広く用いられているため、この機能強化が役立つ場面は多いだろう。ノートPCをプロジェクタにつないでプレゼンを行う際にも、この機能が活用できるはず。

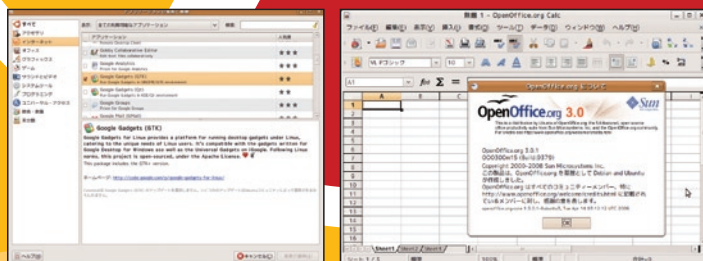
## 3 X.Orgサーバ1.6搭載

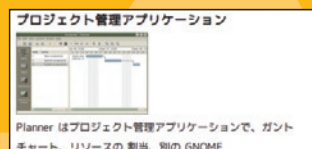
従来、Linuxの世界においてはATI系のグラフィックス環境は、nVidia系と比べると対応が遅く、3D環境がうまく動作しなかったり、時にはX.Orgも起動できないという場合があった。しかし最近ではコミュニティの尽力により、Linux環境への対応も急速に改善されてきている。今回9.04が採用したX.Orgサーバ1.6では、ATIのグラフィック環境への対応がさらに進められている。

# ついに登場!!

## 4 最新規格「ext4」ファイルシステムへのいち早い対応

Linux用の最新ファイルシステムである「ext4」は、1ファイルの最大サイズが32TiB（テビバイト≒テラバイト）から1EiB（エクスビバイト≒約100京バイト）にまで拡大している。テラからエクサというとてつもなく巨大なデータを取り扱えるわけだ。個人利用ではピンと来ないかも知れないが、研究分野における可視化データや、仮想化イメージのスナップショット、さらにはJsox法の施行に伴う証跡を残すためのトランザクションデータのバックアップなど、日々業務で発生するデータは急激な肥大化を見せている。将来を見据えたファイルシステムとして、本格普及が求められるのもそう遠い日ではないだろう。

## 5 対応アプリケーションの充実

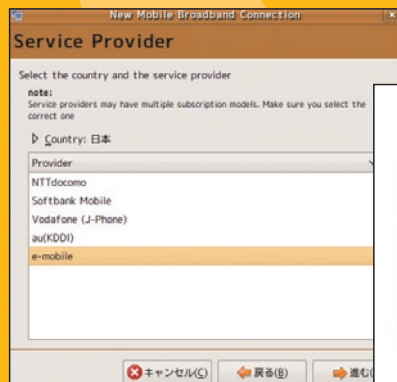
「追加と削除」に含まれるアプリケーションがさらに充実している。従来は自分でコンパイルしなければ導入できなかったアプリケーションも、このバージョンでは「追加と削除…」からマウスでチェックを入れるだけで導入可能となったのだ。また、Ubuntu8.10では見送りとなったOpenOffice.orgの最新バージョン3.0.1も標準で搭載されている。

## 6 Synapticパッケージマネージャの新機能

Synapticパッケージマネージャ内にアプリケーションのプレビュー機能が追加された。

## 7 新しい管理ツール

「システム」＞「システム管理」に、「不要パッケージの管理」という便利なツールが追加された。システムに残っている無駄なパッケージを削除することによるリソース解放は、ネットブックなどで重宝される機能となるだろう。

**注意!!**
Synapticを使わずインストールしたものがここに表示されるため、不要でなくてもリストアップされることがある。大事なアプリを不用意に削除しないよう注意が必要だ。

## 8 Mobile接続がより便利に

モバイル通信の設定が、国内全キャリアに対応。簡単なステップで接続できるようになっている。

## 9 通知機能のデザインがシックなものに

次バージョンの9.10あたりをメドに、デスクトップ・デザインの刷新も検討されている。その先駆けとして、通知機能のポップアップ・メッセージがシックなものになっている。

## 10 サーバ版での新機能

Ubuntu 9.04 Server Editionでは、Amazon EC2のAPIを活用しながら自前でクラウド環境を構成できるオープンソースの「Eucalyptus」を搭載。自社のサーバにインストールすることで、Amazon EC2やAmazon EBS/S3といったストレージサービスと同じような環境を自前で構築できるようになる。

# ウイルス完全対策テクニック

## ウイルス検出率99.9%を誇る驚愕のアンチウイルスソフトを使え!

99.9%というほぼすべてのウイルスを撃退するG DATAアンチウイルス。日本ではアンチウイルスソフト御三家に遅れをとっているが、ドイツをはじめ世界ではかなりメジャーなソフト。付録DVDに収録した体験版で、その実力を実際に試してみよう。

### ウイルス検出率99.9%

ドイツの第三者機関である「AV-TEST」の検出力テストで、ウイルス検出率99.9%を記録している。連続18カ月首位をキープという実力は本物だ

### ダブルスキャンテクノロジーで高速化

ウイルスエンジンはカスペルスキーとフリーのアンチウイルスソフトavast!の2つを使用。これにより検出精度を高めている

### USBブートができる

USBからブートできる「USB版」が用意され、PC本体に同ソフトをインストールしなくもてウイルス検索をすることが可能だ

### LinuxもWindowsも安心!

USBメモリからのブートすることでG DATAをパソコンにインストールせずに直接PCのウイルススキャンが行えるためWindowsでもLinuxでもスキャン可能

## STEP 1 アンチウイルスソフトのブータブルUSBを作成!

「G DATA 2009」の魅力は、Linuxベースでブートする USBメモリが作成できること。これがあればLinuxでもWindowsでもウイルス対策は万全だ。付録DVDに収録した体験版で、ブータブルUSBを作成してみよう

## STEP 2 USBからG DATA体験版をインストール

作成したブータブルUSBは、Windows版「G DATA 2009」のインストーラにもなる。しかもWindowsにインストールされる「G DATA 2009」はフル機能の体験版だ。Windowsマシンにもインストールしてみよう

## STEP 3 自分のPCをスキャン&駆除する

Linuxの構造上ウイルスに感染することは希だろうが、Linux向けのウイルスの出現もちらほら。また、ダウンロードしたファイルが感染していて、それをWindowsに受け渡すと感染する。Linuxマシンもスキャンしよう

# STEP 1 イメージファイルからUSBメモリにG DATA体験版をインストール

いつでも持ち運べてどんなOSでもウイルススキャンができるブータブルUSBを作成しよう。すぐに作成できるぞ

早速ブータブルUSBの作成にチャレンジしてみよう。2GB程度のUSBメモリを使えば、すぐに作成することができるぞ。もちろんUSBメモリは家に転がっている使用済みのもので問題ない。もし、手元にUSBメモリが無い場合でも、2GBタイプなら非常に安く購入できるので、1本用意してみよう。今回紹介するブータブルUSBは、ひとつ作成するだけで手持ちのパソコンすべてのウイルスチェックができるので、コストパフォーマンスは高いものになっているぞ。

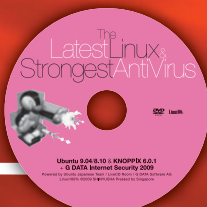
**用意するもの USBメモリ**

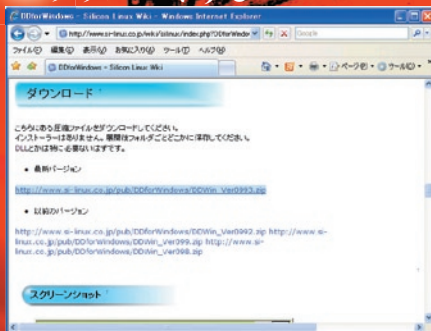
ブータブルUSB化する作業を行うと、USBメモリのデータはすべて消去されるので要注意

## ブータブルUSBの作成

実際にブータブルUSBの作成に取りかかろう。作業は付録DVDに収録してあるG DATAのブータブルUSB用イメージファイルを「DD for Windows」というツールを使ってUSBメモリに書き込むだけなので、難なく作成できるだろう。

### 1 付録DVDからイメージファイルを用意する

付録DVDに収録されているZip形式のUSB版イメージファイルをパソコンのデスクトップにコピーし、解凍する

gdis2009usb0327j.img
IMG ファイル
1,839,443 KB

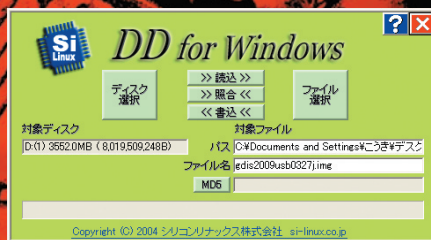
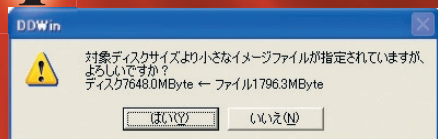
### 2 DD for Windowsをダウンロードする

USBイメージファイルをUSBに書き込むため、Windows上でCompactFlashなどのディスクイメージのバックアップやリカバーをするためのツール「DD for Windows」を以下のサイトからをダウンロードして解凍する

http://www.si-linux.co.jp/wiki/silinux/index.php?DDforWindows#s74c46

### 3 USBメモリに書き込む

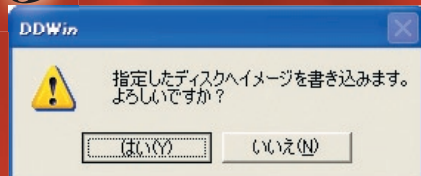
DD for Windowsを起動する。「ディスク選択」をクリックして、USBメモリを選択し、「ファイル選択」をクリックしてイメージファイルを選ぶ。中央にある「書込」をクリックしよう

### 4 ディスクサイズの確認

DDWin
対象ディスクサイズより小さなイメージファイルが指定されていますが、よろしいですか？
ディスク7648.0MByte ← ファイル1796.3MByte
はい(Y) いいえ(N)

USBメモリのディスクサイズを確認する画面が表示される。ここでは「はい」をクリックする

### 5 書き込みの確認

DDWin

指定したディスクへイメージを書き込みます。よろしいですか？
はい(Y) いいえ(N)

最後に書き込みの確認ダイアログが表示されたら「はい」をクリックして進めよう

**ブータブルUSBの完成！**

**しかしこのままではウイルスデータが古い！**

**最新のデータにアップデートはSTEP2へ**

作成されたブータブルUSBのウイルススキャンデータは、イメージファイルが作成された時点のものなので、データが古い。STEP2で最新のデータにしよう

STEP 2

# Windowsにインストールして最新ファイルにアップデートする

ウイルススキャンデータを最新のデータに更新しよう。そのためには一度WindowsにG DATAをインストールする必要がある

## Windowsにインストールする

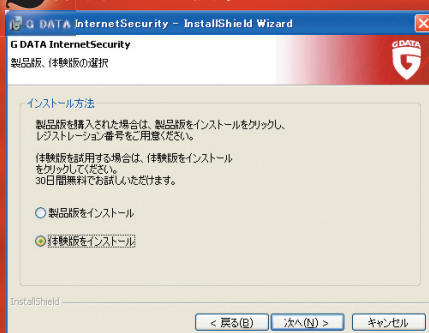
できあがったブータブルUSBには、ウイルスをチェックする「ワクチン」と呼ばれるファイルが最新ではない。USBブータブルのワクチンを最新のファイルにするには、Windowsマシンに一度G DATAをインストールして、更新ファイルを最新のものにし、その上でブータブルUSBのワクチンファイルを書き換える必要がある。少し手間がかかるが、最新ファイルでスキャンするために最新版を入手しておこう。

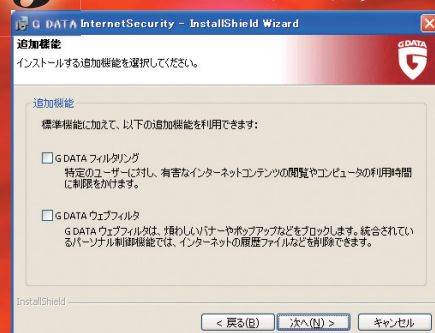
### 他社製アンチウイルスソフトをアンインストールせよ

パソコンにすでに別のアンチウイルスソフトがインストールされている場合は、一度アンインストールしておこう。1台のパソコンに2つのアンチウイルスソフトをインストールしてもウイルス対策が2倍に強化されるわけではなく、アンチウイルスソフト同士がバッティングして不具合を起こす場合があるからだ。

### 1 Start ファイルを実行する

Windowsマシンを起動し、接続したブータブルUSB内の「Start.exe」ファイルをダブルクリックして起動する

### 2 体験版を選択する

G DATAのインストールウィザードが表示されるので、「次へ」をクリックして進めよう。「インストール方法」では、「体験版をインストール」をチェックして「次へ」をクリック

### 3 Windows 版の設定を行う

追加機能やこのあと表示されるスキャンのスケジュールを設定する。最後の画面で「インストール」をクリックしよう

### 4 ウィザードを終了

インストールウイザードが終了したら、「完了」をクリックする

### 5 Windows マシンを再起動する

再起動を託す画面で「はい」をクリックして、Windowsマシンを再起動しよう

### G DATA の製品版には豊富な機能が揃っている

ブータブルUSBは、パソコンが起動する前にパソコンがウイルスに感染していないかをチェックすることが最大の役割だ。よってブータブルUSBのウイルス対策機能はパソコン全体のチェック、ファイルやフォルダのチェックなどの最小限に留められている。製品版のG DATAはウイルス対策はもちろん、アンチスパムやファイヤーウォール、ウェブフィルタなどの豊富な機能がある。

G DATAの製品版には、マルウェア対策やスパイウェア対策、ステルスウェア対策機能があり、最近流行のUSBメモリのウイルス対策機能も搭載されているので万全だ

# 最新データにアップデートする

WindowsにG DATAがインストールできたら、まずWindows版のG DATAのウイルススキャンファイルを最新版に更新しよう。実作業としては、「ワクチン」ファイルと「プログラム」ファイルを最新のデータに更新する。途中ユーザー名とパスワードの入力を要請される。体験版の場合は、一度メーカーにメールアドレスを送り、そのアドレス宛に送られてくるユーザー名とパスワードを入力する。

## 1 G DATA を起動する

タスクトレイにG DATAのアイコンが表示されるので、これをダブルクリックする

## 2 ワクチンとプログラムを更新する

「ようこそ」画面が表示されるので、「更新を実行」をクリックする

## 3 ユーザー認証の手続きを行う

表示される画面で、「ユーザー認証(初回用)」をクリックする

## 4 メールアドレスを入力する

「更新サーバーにログイン」画面で、メールアドレスを2回入力して、「ログイン」をクリック。登録完了のダイアログが表示されたら「OK」をクリックする

## 5 ウイルス更新用アクセスデータを実行する

ユーザー名とパスワードが自動で入力される。「OK」をクリックする

## 6 インターネットの更新

インターネット更新の画面が数枚表示されるので、ファイルがダウンロードされるまでしばらく待つ

## 7 プログラムの更新を実行する

再び「ようこそ」画面が表示されたら、「閉じる」をクリックする。プログラムの更新を実行画面で「OK」をクリックする

# ワクチンを更新する

Windows版のG DATAのワクチンとプログラムのデータが更新できたら、次にブータブルUSBのワクチンデータを最新のものに更新しよう。この作業もWindowsマシンにブータブルUSBを接続してWindowsから操作することになる。

## 1 インターネットの更新

「スタート」ボタンをクリックして、「すべてのプログラム」→「G DATAインターネットセキュリティ」→「G DATAブートスティックの更新」を選択する

## 2 ワクチンを更新する

「ワクチン更新」画面でUSBドライブを指定し、「更新」をクリック。更新が終われば、「終了」をクリックする。

## 最新のワクチンを導入

これでブータブルUSBのウイルスチェックファイルが最新版に更新された

STEP 3

# PCをウイルススキャン&駆除する

最新版になったブータブルUSBでPCをスキャンしよう。LinuxでもWindowsでもOKだ

## ブータブルUSBをWindowsで起動

ここまでの過程で準備はすべて完了した。それでは、ここからは作成したブータブルUSBを実際に使ってみることにしよう。使用するマシンはLinuxでもWindowsでもMacでもOKだ。G DATAでスキャンしたいマシンにブータブルUSBを接続して、マシンを起動する。あとは最新のバージョンであることを確認したら、ブータブルUSB版G DATAを使ってマシンのウイルスチェックを実行しよう。

### 1 USBから起動する

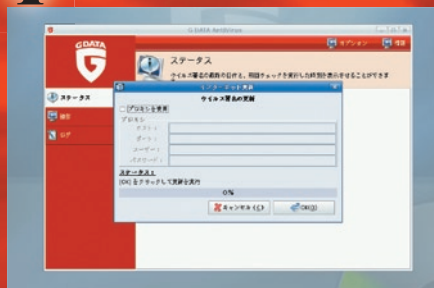
スキャンするパソコンにUSBメモリを接続しパソコンを起動する。USBからブートするように設定しておく。ブート選択画面で「G DATA BootScan」を選択して「Enter」キーを押す

### 2 起動を待つ

起動には少々時間を要するので、しばらく待つ

### 3 ソフトを更新する

ウイルス署名ファイルが古くなっているというアナウンスのダイアログが表示される場合は「はい」をクリックしよう

### 4 更新を実行する

「インターネット更新」画面で、「OK」をクリックすると、ファイルの更新が行われる

## ブータブルUSB版G DATAの概要

ブータブルUSBから起動すると、G DATAのメイン画面が表示される。これはXfceというディストリビューションのLinuxで動作している。機能はシンプルなので操作も簡単だ。

### A ステータス

ウイルススキャンファイルの更新日と前回パソコンをチェックした日時が表示される

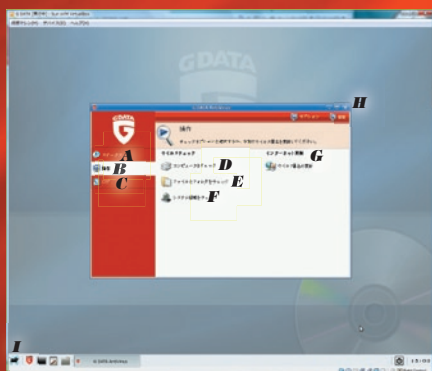
### B 操作

ウイルスチェックの項目とウイルススキャンファイルの更新機能がある

### C ログ

コンピュータをチェックした日付やスキャン内容が保存された記録がファイルで管理されている

### D コンピュータをチェック

コンピュータ全体のウイルスチェックを行う。最初にスキャンする時は、そこそこ時間がかかる

ブータブルUSB版のG DATA。パソコンを起動する前にチェックする役割なので、機能は限定されている

### E ファイルとフォルダをチェック

パソコン内のファイルとフォルダのウイルスチェックを行う

### F システム領域をチェック

パソコン内のシステム領域のみをウイルスチェックする

### G インターネット更新

ウイルススキャンファイルを最新のものにするために「ウイルス署名の更新」を実行する

### H 「閉じる」ボタン

ブータブル版G DATAを終了する場合に、クリックする。ブータブルUSBで起動したLinuxはそのままだ

### I 終了

ブータブルUSBから起動したLinuxを終了する

## システム領域をチェック

まず、G DATAでブートセクターなどのコンピュータのシステム領域のチェックをはじめよう。勝手にWebサイトに接続したり、インターネットの閲覧履歴やパスワード、キーストロークの記録などを行うスパイウェアやアドウェア、リスクウェアのスキャン・駆除が行え、システム領域を守ることができるぞ。

### 1 スキャンの開始

左に並んでいるメニューから「操作」を選択。表示された一覧から「システム領域をチェック」をクリックしよう

### 2 スキャン結果の確認

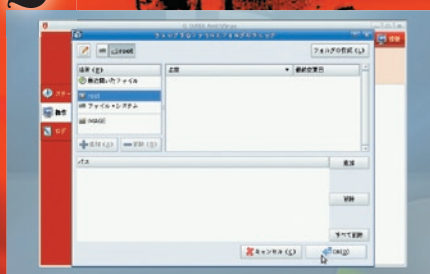
システム領域のチェックが行われる。なにもなければ「感染:0」「感染の疑い:0」とスキャン結果が表示される

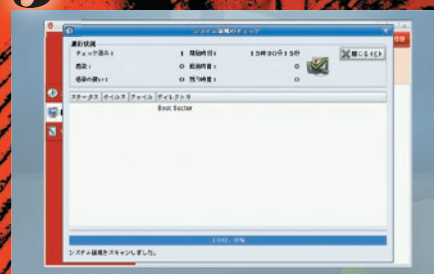
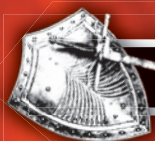
## Linuxマシン全体をチェック

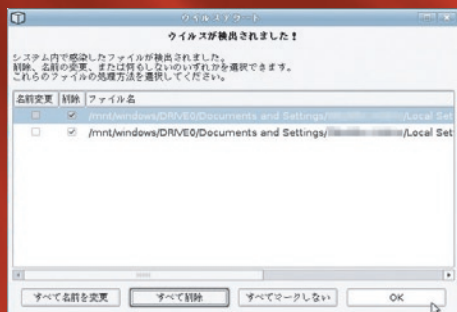
Linuxの構造上ウイルスに感染することは希だろうが、Linux向けのウイルスの出現もちらほら報告されている。また、ダウンロードしたファイルなどが感染していた場合、それをWindowsマシンなどに受け渡したときに感染してしまうという恐怖がある。自分は被害を受けないが他人には、または自分のWindowsマシンが、ということになる。友達を失いたくなければ、予防しておくことに越したことはないだろう。

### 1 スキャンの開始

「操作」から「コンピュータをチェック」をクリックすると、パソコン全体のウイルススキャンが開始される

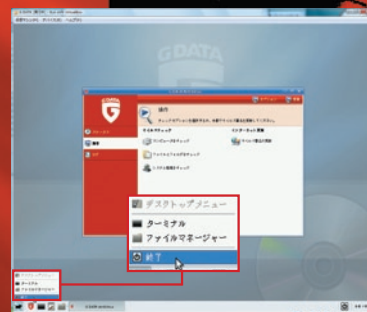
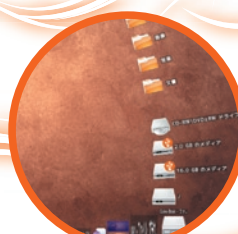
### 2 スキャン領域の設定

パソコンの一部をスキャンするには「操作」から「ファイルとフォルダをチェック」をクリック。スキャン領域を設定

### 3 スキャン結果の確認

スキャン結果が表示され、感染していたり感染の疑いがあるファイルを発見した場合はピックアップしてくれる

## 検出されたウイルスを削除する

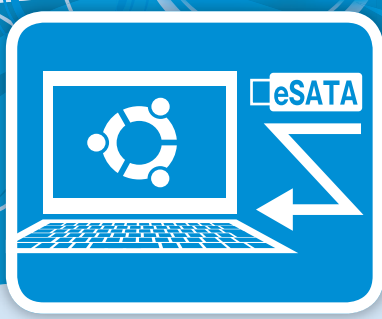
運悪くLinuxマシンからウイルスファイルが発見されたら、以下のような画面が表示される。慌てずにウイルスファイルを駆除しよう。ただし、ピックアップされたファイルがシステム関連の場合は要注意。実際は必要なファイルかもしれないので、よく確認してから削除するようにしよう。

削除するファイルにチェックを入れて、「OK」を押して駆除する

## 終了するには

G DATAを終了するには、Windowsと同じようにウィンドウ右上の「閉じる」ボタンをクリックする。しかし、これだとG DATAが終了しただけでOS自体は終了していない。G DATAを起動していたLinuxを終了する必要がある。OSを終了するには画面左下のタスクバーの「Xfce」メニューボタンをクリックして、「終了」を選択する。

G DATAを動作させているのは、LinuxベースのXfceというディストリビューション。終了するには、「Xfce」メニューから「終了」を選択しよう

ハイレベルLinux
そんな環境で本当に満足!?
SECU
総力特集
ハード＋システム＋ソフト!!
あらゆる方面から
Linuxを強化しろ!!

01 eSATAメモリで超高速起動&SSD使用でOS超高速化!! P.16
02 軽量環境導入&不要サービス停止でデスクトップを軽量化!! P.22
03 知らなきゃ損するショートカット&ショートカットをマウスで起動!! P.26
04 最も簡単に必要な環境を導入する!! P.30
05 軽量/高速なソフトを使って作業速度Up!! P.36
06 コーデックをインストールでUbuntuをメディアプレイヤーに!! P.40
07 Webベースであらゆるのと OSとファイル共有する!! P.44
08 あのWindowsツールも使えるWine導入テクニック P.48
09 フリーソフトで完全ガードUbuntuセキュリティガイド P.52
超小型USB使用ネットブック向けマルチブートテク P.34
タッチパネルでCompiz?最新PC徹底検証!! P.58

# 入門

近頃ではすっかりおなじみのLinux。だが、単にインストールしてそのまま使っては宝の持ち腐れ。ここではLinuxを徹底的に強化する最新テクニックを紹介!!

# 超高速ストレージで最強のLinux環境を作れ!

## PART1 eSATAインタフェース編

SSDや高速HDDなどのSATAストレージデバイスを増設するには、外部接続用のeSATAポートが必要。そこで、パソコン本体にeSATAインタフェースを増設して、ここにHDDやUSBメモリよりも高速なドライブを導入。Ubuntuをインストールして起動速度を調べてみる！

### ●PCマザーボードに装備されているポートやバススロットをチェック!

パソコンのマザーボードには、各種のI/Oポートやバスが装備されている。これらにeSATA接続用のインタフェースカードなどを取り付けることで、eSATAポートのないマシンにもeSATAポートを拡張することが可能だ。

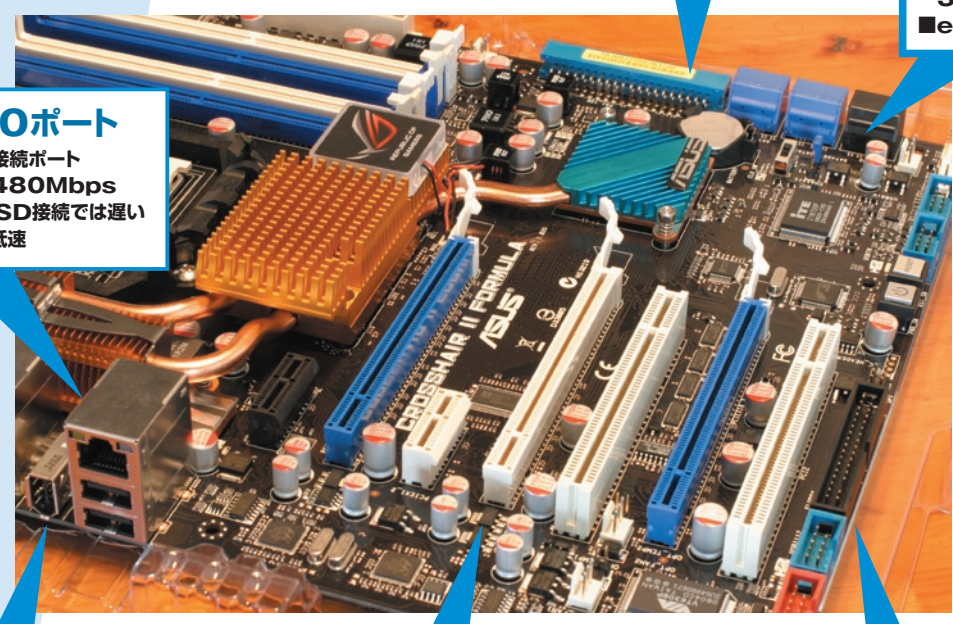
**ATAポート**

■内部ストレージ接続用ポート
■現在は主にCD/DVDドライブ用
■IDEポートとも呼ばれる
■外部接続は不具合が多い

**SATAポート**

■元来は内部ストレージ用だった
■初期の第一世代は1.5Gbps
■現在の第二世代は3Gbps
■eSATAへの変換も可能

**USB 2.0ポート**

■現在主流の外部接続ポート
■転送速度は最大480Mbps
■高速HDDやSSD接続では遅い
■USB 1.1は低速

eSATAポートの増設には、PCIバススロットかPCI expressバススロットへeSATA拡張カードを装備する。また、SATAポートから変換アダプタ経由でeSATAポートへ変換して出力を行うことも可能

**IEEE1394ポート**

■規格は400Mbpsと800Mbps
■実行速度はUSB 2.0より高速
■外部HDD接続やビデオ接続用
■Macではポピュラーなポート

**PCI expressバス**

■レーン数によって形状（長さ）が異なる
■x1レーン・スロットが基本スロット
■x16レーン・スロットは主にビデオカード用
■x4やx8もあるがx16スロットで代用可能

**PCIバス**

■今はほとんどのPCに装備されている
■多種多様な拡張カードが存在する
■背の低いロープロファイル形状もある
■PCI expressバスへの移行が進行中

## 増設するeSATA増設カードやアダプタの選び方と注意点

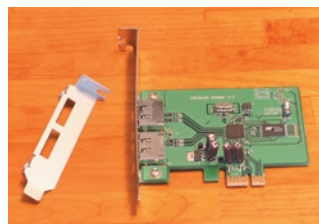
### 使用しているパソコンに応じて最適なカードやアダプタを選ぶ

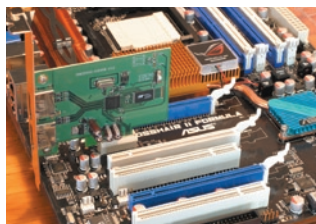
eSATA拡張カードにはPCIバススロット用とPCI expressバススロット用がある。SATAポート変換アダプタは安価だ

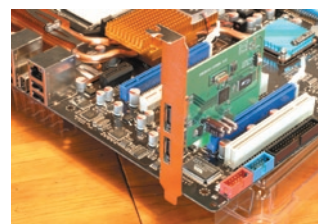
### それぞれの拡張方法による制限事項に注意しよう

eSATA拡張カードにはPCI接続のものとPCI express用があるが、PCIバスのデータ転送速度はPCI expressに比べると1/3～1/4程度のため、eSATAの超高速な転送速度をフルに発揮できない点に注意。また、SATAポートからeSATAポートへ変換するアダプタを使用する場合、本来eSATAで規定されている2mケーブルが使えず、限られた長さのケーブルしか使えないのだ。結局、PCI express接続型のeSATA拡張カードだけが、速度制限無しで使えるフルスペックのeSATAポートだ。

## ●eSATA拡張カードならPCI expres x1スロット用がオススメ

### バッファロー IFC-PCIE2ES

ロープロファイル用スロット金具も付属しているので、このバック金具に交換すればスリムタイプPCへの装着も可能となる

### PCI express x1 スロットへ装備

PCI express用eSATAカードの場合、通常はPCI express x1レーンのスロットへ装備する

### PCI expressスロットは下位互換性がある

PCIexpress x1スロットが使用できなくても、x4・x8・x16レーンのPCI express スロットへ装着可能

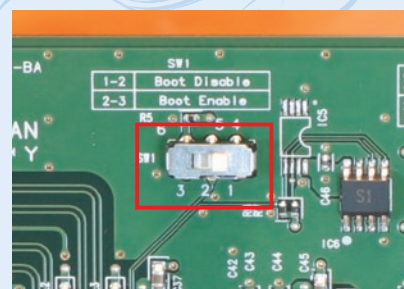
## ほとんどのPCへ増設可能な PCIスロット用eSATAポート拡張カード

### バッファロー IFC-PCI2ES

こちらもロープロファイル対応。最大転送速度は1.5Gbpsだが、SLCデバイスを搭載した高速SSDでなければ、転送速度に不満は感じないだろう

### 古いPCでもPCIバスなら安心

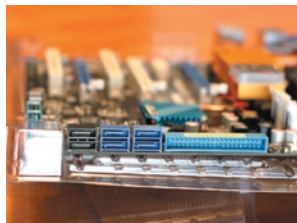
デスクトップPCであればPCIスロットはほぼすべてのマシンに装備されている。転送速度制限はあるが最もポピュラーな拡張カードだ

### カード上のブート・スイッチの設定に注意

IFC-PCIE2ES、IFC-PCI2ESともに、eSATA拡張カードへ接続したストレージデバイスからOSを起動したい場合、このスイッチを「ON」にする

## 安価でお手軽! SATAポート→eSATAポートへの変換ケーブル

### マザーボードのSATAポートをeSATAに変換

マザーボード上の未使用SATAポートを外部eSATAポートへ変換するアダプタ。ただし、接続可能なeSATAケーブルは50cmまで

### マザーボードの空きSATAポートを確認

2つのSATAポートがマザーボードに装備されている場合、内蔵HDDが1台使用するなら、残り1ポートをeSATAへ変換可能だ

### コストパフォーマンスは抜群!

アダプタの市販価格は500円～1,000円程度。eSATAを2ポート変換できるものや、外部電源端子を同時に増設可能なアダプタもある

# 内蔵型でも外付け型でもSATAドライブは超高速！

## PART 2 eSATAデバイス編

外付け型ストレージデバイス用のインタフェースであるeSATAは、SATAストレージデバイスと仕様が共通のため、PC内蔵型ストレージと同じSATAストレージデバイスが、全て使用可能だ。そこでここでは、用途に合った高性能なeSATA・SATAデバイスを紹介しよう

### ●使用目的に合わせて最適なSATAストレージデバイスを選ぼう

従来はATA（IDE）ポートへ接続されていたHDDやDVDドライブだが、今ではSATA対応の機種が増えてきた。さらに、従来のHDDよりも高速な転送速度を持つSSDのなかには、SATA専用モデルも多い。パソコン環境を極限まで高速化したいなら、もはやSATAインタフェースは不可欠なのだ。

**SATA接続HDD**

■大容量で容量ビット単価はダントツに安価
■データ保存用や起動デバイスとしても万能
■テラバイトの容量を一台で実現できる大容量
■サーバ用の高速モデルは騒音・発熱も凄い

**SATA接続SSD（SLCタイプ）**

■高速でありながら書き換え寿命も長い
■OS起動デバイスとしてはHDDよりも優秀
■HDDと比較して容量単価が非常に高価
■高速ではあるが無音で発熱もほとんど無い

SATA対応ストレージをeSATA経由で外部へ接続する場合、必ず電源を別途用意する必要がある。そこで、電源も同梱された「裸族のお立ち台」シリーズなどを利用するのも便利だ。DVD・Blu-rayドライブ用のeSATA対応外付けケースも有るので、光学ドライブもeSATA接続が可能

**SATA接続SSD（MLCタイプ）**

■SLC型SSDと比較すると書き換え寿命が短い
■SLC型SSDに比べ書き換え速度（消去）が遅い
■プチフリーズと呼ばれる現象が発生し易い
■比較的安価で読み出しは高速（無音・微発熱）

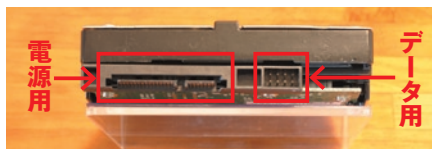
**eSATA接続SSD（USB接続可能）**

■USBフラッシュメモリとしても使用できる
■小型なのでモバイル用や実験用として便利
■eSATA接続時はUSBから電源が必要
■電源供給eSATA規格は現状統一規格が無い

## ●SATA HDDも日進月歩！ 新型に改装すれば性能アップ！

### やはりSATA HDDがストレージの主役

データ記録メディアとしてはやはりHDDがコストパフォーマンスから見ても最適。古いHDDの改装でも、数値的には高速化が可能

### SATAコネクタはIDE/ATAコネクタと異なる

SATA HDDの接続コネクタは左側の幅広コネクタが電源で右側がデータ用。2.5インチのHDD/SSDとも共通仕様なので、換装がラクなのもうれしい

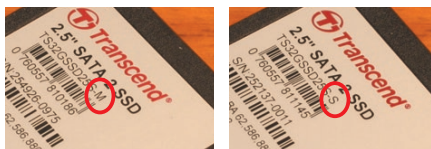
### ATA（IDE）型HDDも併売されているので注意

ショップでSATA型HDDを購入する場合には、「シリアルATA」とハッキリ指定しよう。写真は古いタイプのATA（IDE）型HDD。コネクタ部分の違いで見分けられる

## 予算があって速度と無音・微発熱で選ぶなら最新ストレージのSSDを選ぼう

### SSDストレージは2.5インチが主流

多くのSSDは2.5インチHDDと形状が同じなので、デスクトップPCへ内蔵する場合は3.5インチベイ取付用のアダプタを用いる

### より高速・長寿命を求めるなら高価なSLCを選びたい

MLCのSSDでもHDDよりは高速だが、予算が許せば高性能なSLCタイプを選びたい。上記の例では、末尾の「M」がMLC、「S」がSLCモデルとなる

### コネクタはSATAのHDDと同じ仕様

SATA SSDはSATA接続のHDDと同一規格なので、ドライブの改装時はコネクタの差し替えのみでOKだ。なお、eSATA接続でも同じアダプタが使える

## これは便利! USBフラッシュとしても使えるうえeSATAポートにも直結可能

### 見た目はまるでUSBフラッシュメモリ

上の写真はシリコンパワー「eSATA/USB SSD 32GB」。外観はごく普通のUSBメモリだが、れっきとしたSSDストレージ。さらにUSB接続用の端子も備えている

### eSATAポートへ直接差し込める優れモノ

キャップを外すとUSBコネクタではなくeSATAコネクタが現れる。PCのeSATAコネクタへ直結できるので、接続ケーブルは不要だ

### eSATA接続時には電源供給が必要

専用の電源ケーブルをミニUSBコネクタへ接続し、一方をPCのUSBポートに接続することで電源供給。eSATAポートから抜くと、USBフラッシュとしても機能する

## ●同じSSDでもMLCタイプのSSDは書き込み速度が遅くなってしまう

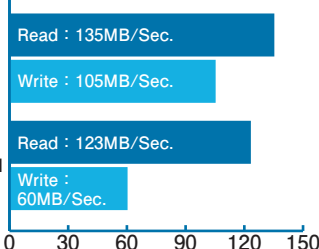
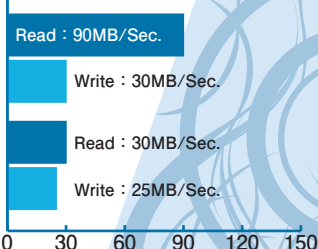
高価なSLCタイプのSSDは読み書きとも高速だが、MLCタイプでは書き込み（消去）速度が遅く、条件によってはHDDより遅くなることも。そこでOS用にMLC型SSDを、データ記録用にはHDDを併用する方法もアリ。若干高価になるが、大容量キャッシュを搭載したドライブを選ぶのも良い選択肢だ。

### SSDのデータ読み書き速度 ※数値はメーカー公称値

SILICON POWER
eSATA/USB SSD

eSATA 接続
Read：90MB/Sec.
Write：30MB/Sec.

USB 接続
Read：30MB/Sec.
Write：25MB/Sec.

0 30 60 90 120 150

# Ubuntu9.04で実験！一番速いストレージはどれだ？

## PART 3 ベンチマークテスト編

**SSDやHDDを最新モデルに変えることで、OSの起動環境が高速化できることはわかった。では、旧型のHDDと比較して、実際にどれだけ高速化できるのか？　Ubuntu 9.04をクリーンインストールして、ベンチマークテストでガチンコ対決させてみる！**

評価環境は比較的一般的な普通の自作デスクトップPC環境で行った

### テストで使用したPCのスペック

**CPU**：Intel Pentium Dual Core E5200（2.5GHz）

**チップセット**：Intel 945GC+ICH7

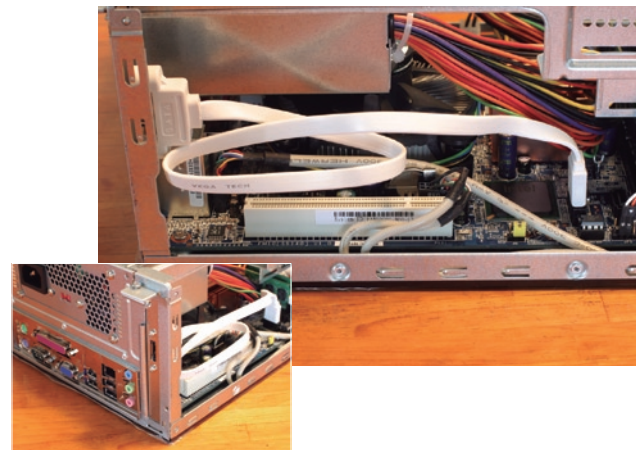
**メモリ**：PC2-6400 DDR2 2GB x2枚 合計4GB※

**グラフィック**：Intel 945GCチップセット内蔵

**HDD**：HGST Deskstar T7K250/SATA（7200rpm/250GB）

※ただしPC2-5300として稼働しており、945GCの制限によって3.2GBまでしか認識されていない

OSとしては、Ubuntu 9.04 日本語 Remixを使用。全ての新品のストレージにクリーンインストールを行った。ただし、現用中のHDD（HGST Deskstar T7K250）については、物理フォーマットを施して初期化した状態で、Ubuntu 9.04をクリーンインストールした。また、インストールしたUbuntuの設定は画面サイズをXGA（1024×768ドット）に設定したのを除き、デフォルト状態でテストを行っている

### SATAインターフェースはICH7を使用

SATAポートは、マザーボード上に搭載されたIntel ICH7内蔵SATAポートを使用。2ポートのSATAポートの内、1ポートをeSATAアダプタを介して外部へ出力。eSATA/USB SSD接続用とした

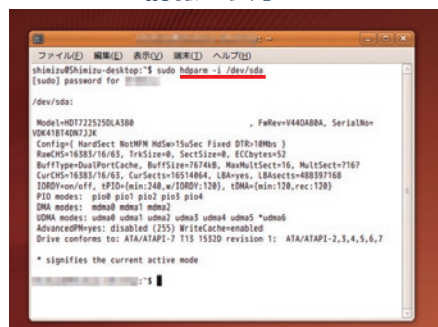
### PCIカードのeSATAもテストしてみた

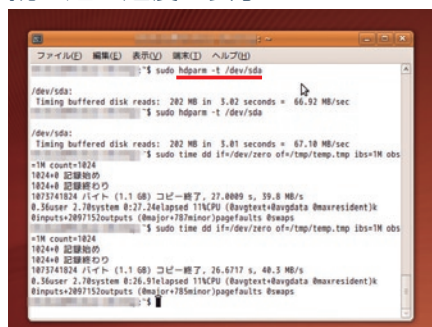
テスト機にはPCIバスが1スロットあるので、PCI用のバッファロー「IFC-PCI2ES」（最大速度1.5Gbps）を装着して検証。しかし、ICH7内蔵SATAポート（最大3Gbps）との体感速度差はほとんど無かった

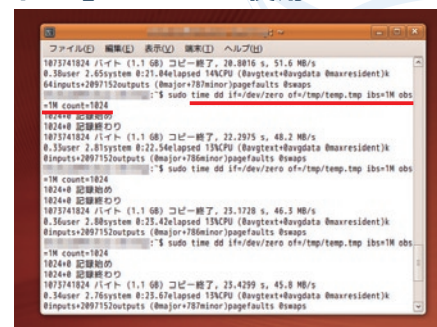
### 4年前に導入したHDDは完全初期化

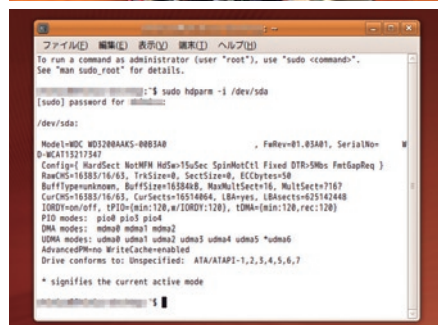
4年ほど前に購入して現用中のHGST Deskstar T7K250/SATAに対しては、HGST製アプリ「Feature Tool Version 2.13」を用いて物理フォーマットを行った。実は、これが一番時間を要した

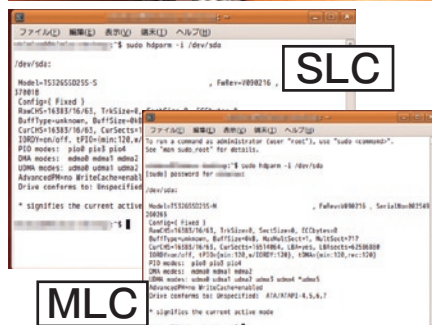
## ●ベンチマークは専用コマンド「hdparm」&「dd」で行える!

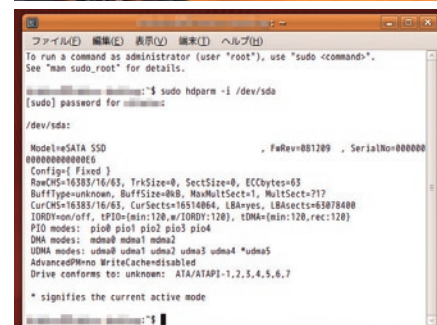
### コマンド「hdparm -i」でストレージ情報を表示

端末から「sudo hdparm -i /dev/sda」と打ち込むと、HDDやSSDの情報が表示される(画面はHGST Deskstar T7K250の情報)

### 「hdparm -t」で読み込み速度を表示

「sudo hdparm -t /dev/sda」と打ち込めば、ストレージの読み込み速度を1回テストして表示される。これを10回繰り返して平均値を取ればよい

### 書き込み速度のテストは「dd」コマンドを使用

書き込み速度はhdparmコマンドでは表示されないので、「dd」コマンドを使用して1GBのファイルのコピーに要する時間を計測。10回の平均値を集計

### HDDでも最新モデルなら読み書きともに高速!

封を切ったばかりのWesternDigital製WD3200AAKSをSATAポートへ接続してテストしてみると、現用中のHDDに比較して読み出しは2倍弱、書き込みは2倍以上高速だった

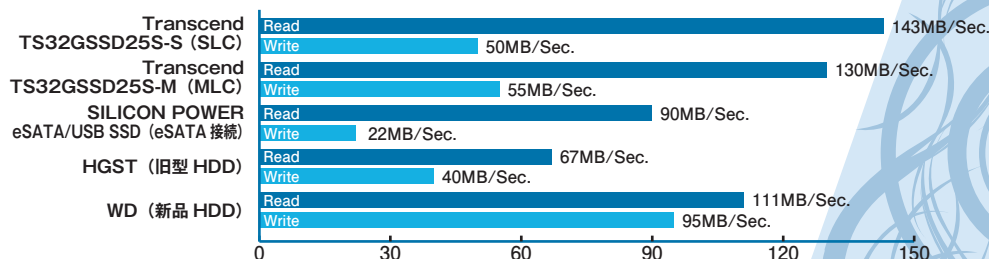
### SLCタイプSSDは動作も無音でさすがに速い

SSDの動作は無音なので、まるでまったく動作していないかのよう。さすがにSLCの読み出しは速度はダントツに高速だが、意外にも書き込み速度はそれ程でも無かった。MLCも、読み出しに限れば高速

### USB兼用のeSATAは便利だが書き込み速度が遅い

eSATA/USB SSDは動作時に赤と青のLEDが点灯する。しかしWrite Cashe機能が無いので書き込み速度が遅い。便利なUSBフラッシュ兼用のための弊害だと思われる

## ●読み込み速度はSSDの圧勝だが書き込みだとHDDが圧勝!

予想に反して、書き込みはHDDのWD3200AAKSが最も高速で、読み込み速度はSLC/MLCともにSSDが高速だった。SSDはメーカー公称値以上の読み込み速度だったが、SLCでは書き込み速度が半分以下という結果に。おそらくメーカーと本誌とでテスト方法が大きく異なっているのだと思われる。

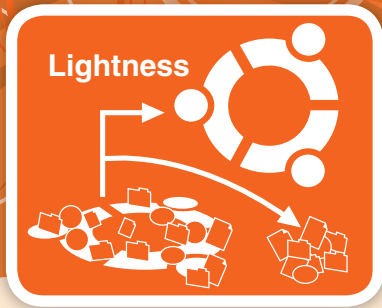
### ベンチマーク実測平均値(小数点以下は四捨五入)

| | Read | Write |
|---|---|---|
| Transcend TS32GSSD25S-S(SLC) | 143MB/Sec. | 50MB/Sec. |
| Transcend TS32GSSD25S-M(MLC) | 130MB/Sec. | 55MB/Sec. |
| SILICON POWER eSATA/USB SSD(eSATA接続) | 90MB/Sec. | 22MB/Sec. |
| HGST(旧型HDD) | 67MB/Sec. | 40MB/Sec. |
| WD(新品HDD) | 111MB/Sec. | 95MB/Sec. |

System

It's so comfortable!!

# システム軽量化でサクサク動作環境

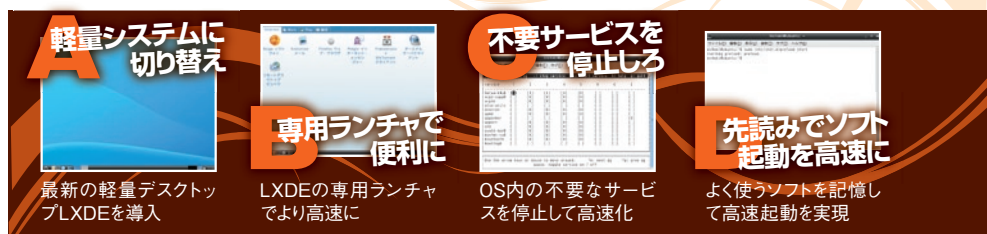
システムのダイエットと利便性アップツールで、サクサク動作、ラクラク操作で快適Linuxlifeをめざせ！

Lightness

軽量&高速デスクトップ環境「LXDE」でもっさりした動作のGUIデスクトップとはさようなら。ランチャーをインストールして素早くアプリ起動しよう。よく使うアプリは自動起動でひと手間省く。不要なサービスを停止して起動の無駄をなくし、ライブラリを事前ロードでアプリの起動も高速化だ。

A 軽量システムに切り替え
最新の軽量デスクトップLXDEを導入

B 専用ランチャで便利に
LXDEの専用ランチャでより高速に

C 不要サービスを停止しろ
OS内の不要なサービスを停止して高速化

D 先読みでソフト起動を高速に
よく使うソフトを記憶して高速起動を実現

## A ●デスクトップのもっさり感がイヤ➡デスクトップをLXDEにカエロ!

## 軽量環境LXDEの導入

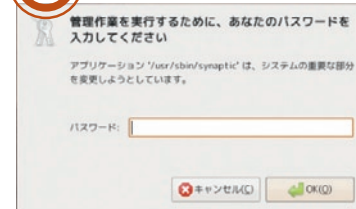
### 標準のGnomeから軽量のLXDEに変更

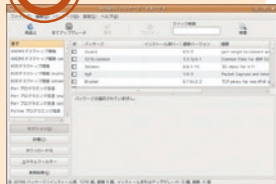
軽量かつモダンなデスクトップ環境として開発されているLXDEを導入しよう。軽量だからといって機能が不足している訳ではなく、一般的なデスクトップ環境にあるものは一通りそろっており、実用性は十分。

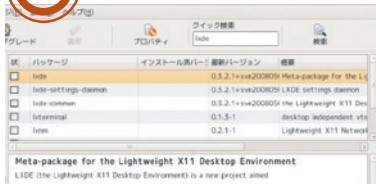
LXDE
作者名●The LXDE Team
URL●http://www.lxde.org/

### ① Synapticを起動しよう

メニューから「システム」-「システム管理」からSynapticパッケージマネージャを選ぼう

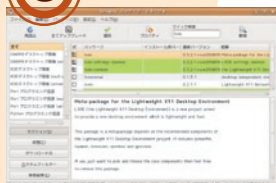
### ② 管理者パスを入力

パッケージ管理は管理者として実行する必要があるので、パスワードを入力しよう

### ③ Synaptic起動

Synapticパッケージマネージャの起動画面だ。ソフトウェアのインストール管理ができるぞ

### ④ LXDEパッケージを検索

クイック検索に「lxde」と入力しよう。結果から「lxde」をダブルクリックしよう

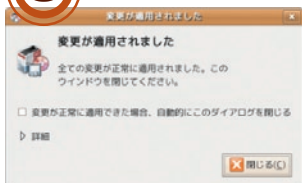
### ⑤ 依存パッケージの確認

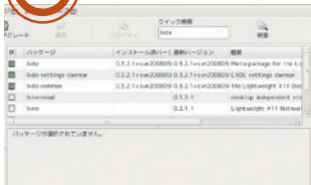
「lxde」に依存関係があるパッケージの情報が表示される。「マーク」ボタンをクリックしよう

### ⑥ 変更を適用しよう

今回インストールされるパッケージの色が変化するぞ。ツールバーの適用ボタンをクリックしよう

### ⑦ インストール開始

インストールの確認画面が表示される。「適用」をクリックしインストールを開始しよう

### ⑧ インストール完了

関係するパッケージのインストールが完了すると、完了を知らせるメッセージボックスが表示される

## 9 変更を確認しよう

インストール済みのパッケージのチェックボックスは緑色で塗りつぶされるぞ。「lxde」を確認しよう

## 10 LXDEで起動しよう

一度ログアウトし、再度ログインするとデスクトップ環境がLXDEになって起動するのだ

gnome…………171MB
LXDE…………125MB

Ubuntu標準のgnomeからLXDEに変更すると、メモリ使用量が約50MB少なくなった。非力なマシンでも快適になるぞ

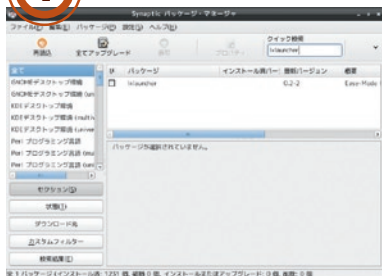
# B●メニューから起動は面倒➡専用ランチャで楽々操作

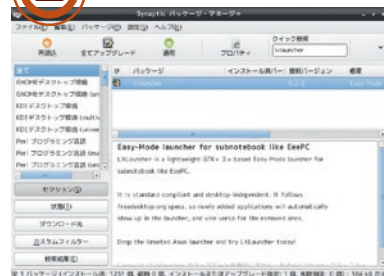
## Synapticからランチャを導入

### LXDE専用ランチャならソフトの起動が簡単

LXLauncherはLXDE用のランチャソフトだ。Netbookなど、インターネット接続用マシンをターゲットにしている。いちいちメニューを開かなくてもアプリを起動でき、操作性が大幅にアップするぞ

LXLauncher
作者名●The LXDE Team
URL●http://lxde.org/

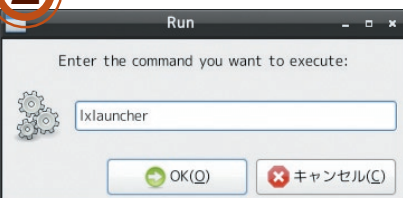
### 1 lxlauncherを検索

LXLauncherもSynapticから導入できる

### 2 パッケージをインストール

「lxlauncher」と検索しインストールしよう

## LXLauncherを起動

### 1 メニューから直接起動

LXLauncherを起動するには、画面下のメニューから「Run」を選ぼう。アプリケーションを直接起動することができる

### 2 lxlauncherと指定

テキストボックスに「lxlauncher」と入力し、「OK」ボタンをクリックするとLXLauncherが起動する

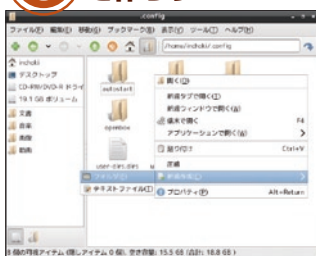
### 3 LXLauncherが起動

デスクトップいっぱいにランチャーが表示される

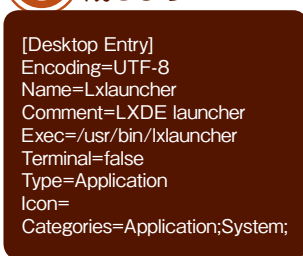
## LXLauncherを自動起動

### 1 デスクトップ設定のフォルダを開く

次に自動起動設定をする。マイドキュメントを開きアドレスバーに「~/.config」と入力しよう

### 2 自動起動フォルダを作ろう

右クリックし「新規作成」から「autostart」というフォルダを作成しよう

### 3 設定ファイルを作成しよう

```
[Desktop Entry]
Encoding=UTF-8
Name=Lxlauncher
Comment=LXDE launcher
Exec=/usr/bin/lxlauncher
Terminal=false
Type=Application
Icon=
Categories=Application;System;
```

テキストエディタを使って、上の内容を入力したら、ファイルを先ほどのフォルダに保存しよう

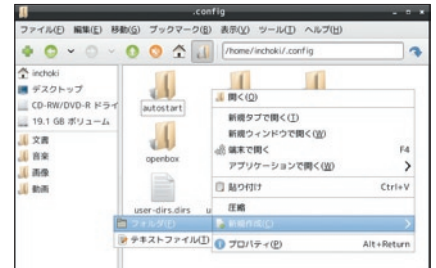
# 各種アプリケーションの自動起動設定

## フォルダにファイルを追加するだけでOKだ

LXLauncherを自動起動にしたのと同じ方法で、他のアプリケーションもOS起動時に自動的に起動するように設定することができる。PCを開いたら必ず使うFirefoxやEvolutionといったブラウザやメールソフトを自動起動にして、OS起動後の手間を省いて便利度を大幅アップしよう。

### ① 自動機同設定ファイルはこの場所に

自動起動設定のファイルを置く場所は「~/.config/autostart」の中だ。「.」で始まるファイルなので、ファイルブラウザ上に表示されない。ウインドウのアドレスバーに直接入力しよう

### ② 自動起動設定ファイルを置くフォルダはここ

「~/.config」内に「autostart」フォルダが存在しない場合は作成しよう。ファイルブラウザ上で右クリックし、「新規作成」から作成することができる

# よく使うアプリを自動起動しよう

## FirefoxとEvolutionを自動起動に

例として今回はFirefoxとEvolutionを自動起動に設定した。自動起動にしたいアプリケーションのフルパスがわかればファイルは作成できる。「~/.config/autostart」内に「.desktop」を拡張子にしたファイルで作成すればOKだ。今回はわかりやすいように「アプリ名.desktop」にした。なお設定ファイルはテキストエディタで作成する。

### ① Firefox自動設定ファイルはこのように

```
[Desktop Entry]
Encoding=UTF-8
Name=Firefox
Comment=Firefox
Exec=/usr/bin/firefox
Terminal=false
Type=Application
Icon=
Categories=Application;System
```

上は「firefox.desktop」の中身だ。「Exec=」の後ろにアプリケーションのフルパスを書けばいい。フルパスは端末で、「which コマンド名」で調べることができる

### ② Evolution自動設定ファイルはこれだ

```
[Desktop Entry]
Encoding=UTF-8
Name=Evolution
Comment=Evolution
Exec=/usr/bin/evolution
Terminal=false
Type=Application
Icon=
Categories=Application;System
```

次に「evolution.desktop」の中身だ。「Name=」や「Comment=」の後ろもわかりやすいようにアプリケーション名などに変更しておこう

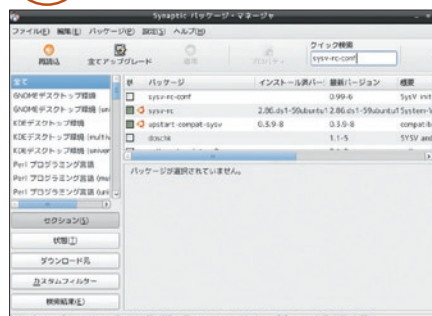
# C●OSを根本的に高速化したい➡不要なサービスを停止しろ

# sysv-rc-confをインストールだ

## 不要サービスが簡単に停止できる!

OS起動時に起動されるサービスのうち使わないものを停止すると、起動時間を短縮したり、メモリの使用量を減らしたりすることができる。ただし、一見使っていないようでもOS内部で使用されているサービスもあるので、必要なものを止めないように注意しよう。今回はサービス管理ツールとして「sysv-rc-conf」を導入する。

sysv-rc-conf
作者名●Joe Oppegaard
URL●http://sysv-rc-conf.sourceforge.net/

### ① Synapticでsysv-rc-confを検索

synapticのクイック検索から「sysv-rc-conf」を検索しよう

### ② sysv-rc-confをインストール

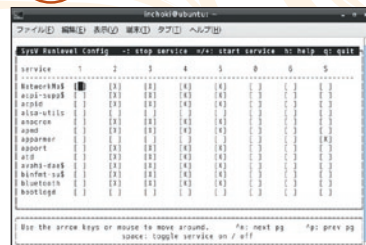
パッケージを選択したら、ツールバーの「適用」ボタンをクリックしインストールだ

## ③メニューから端末を起動

「sysv-rc-conf」はコマンドラインツールなので、インストールが完了したら、メニューにの端末アイコンをクリックし、端末を起動しよう

## ④sysv-rc-confを起動しよう

「sudo sysv-rc-conf」と入力し「Enter」を押し、パスワードを入力しよう

## ⑤起動後の画面

矢印でカーソル移動、スペースで選択だ。選択されているものは「X」が入る

## ⑥停止可能なサービス一覧

NetworkManager
acpi-support
acpid
alsa-utils
anacron
apmd
apparmor
apport
atd
avahi-daemon
binfmt-support
bluetooth
bootlogd
brltty
console-setup
cron
cups
dbus
dns-clean
gdm
hal
halt
hotkey-setup
keyboard-setup
killprocs
klogd
laptop-mode
linux-restricted-modules-common
loopback
mountoverflowtmp
networking
pcmciautils
policykit
powernowd
powernowd.early
pppd-dns
procps
pulseaudio
readahead
readahead-desktop
reboot
rmnologin
rsync
screen-cleanup
sendsigs
single
skeleton
stop-bootlogd
stop-bootlogd-single
stop-readahead
sysklogd
sysstat
system-tools-backends
udev
udev-finish
ufw
umountfs
umountnfs.sh
umountroot
urandom
usplash
vbesave
wpa-ifupdown
x11-common
xserver-xorg-input-wacom

bluetooth
cups

左がUbuntuのサービス一覧だ。「bluetooth」と印刷を使用しなければ「CUPS」の「X」を全て外そう

**サービス停止前………125MB**
**サービス停止後………125MB**

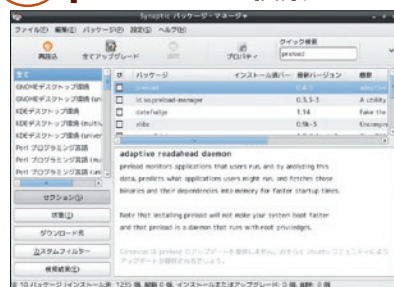
Ubuntuではサーバプログラムなどはデフォルトでは動いていないため、サービス停止をしてもメモリ使用量はあまり変化しなかった。ただし、OSの処理は軽減される

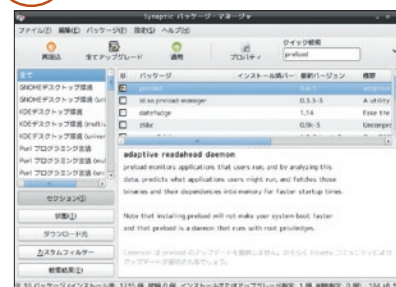
# D●ソフト起動が遅い➡よく使うアプリを先読みして起動高速化

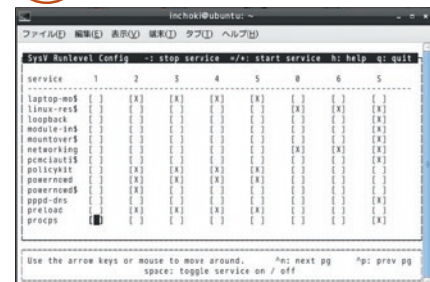
## 頻繁に使うものを学習して高速化!!

アプリケーションが利用するライブラリを事前に読み込んでおくことで高速化が期待できる。「preload」はそのためのツールだ。アプリケーションの使用履歴を蓄積するので、使い続けることで自動的に学習され、よく使うものほど高速に動作するようになるのだ。

**preload**
作者名●Behdad Esfahbod
URL●http://sourceforge.net/projects/preload

## ①Synapticでpreloadを検索

synapticを起動し、クイック検索から「preload」を検索しよう

## ②preloadをインストール

パッケージを選択したら、ツールバーの「適用」ボタンをクリックしインストールだ

## ③自動起動を確認だ

sysv-rc-confなどでOS起動時に自動起動するか確認しよう。次回起動から有効だ

## ④初回は手動で起動しよう

初回は端末で「sudo /etc/init.d/preload start」を入れ起動だ

## 設定ファイルはこの場所にある

上は設定ファイルの場所だが、「preload」はよく使うライブラリを学習していく。使っているうちに賢くなっていくぞ

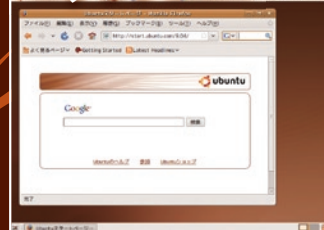
# ショートカットで作業効率アップ

知っているのと知らないのでは大違い。便利なショートカットとそれをさらに活用する方法を紹介する!!

ショートカットキーを駆使して、デスクトップLinuxを快適に使いたい。自分なりのアレンジもしてみたい。ファンクションキーでFirefoxを立ち上げたい。よく使うGimpも一発で起動できないか。

そんな要望に応えるため、Ubuntuには、難しい設定ファイルを触らなくても、簡単にカスタマイズできるツールが用意されている。

また、一部のWebブラウザなどに搭載され、ブラウジングを圧倒的に高速化できるマウスジェスチャを、デスクトップで可能にするツール「Easystroke」に関してもここでは解説していく。

こういった細かいこと細かい部分を向上させることで、作業の速度は大幅に上がるのだ。

## A●いちいちマウス操作は面倒➡キーボードショートカットを使え!

### 知っている人だけ得をする

デスクトップLinuxには複数のキーボード・ショートカットがある。まずはデフォルトの設定を確認しよう。以下の多く、多くのディストリビューションに共通したものだ。ただし、最新のUbuntu では、[Ctrl] ＋ [Alt] ＋ [Backspace] が効かないなど、一部、ディストリビューションによって異なるものもある。

### 散らかったデスクトップでショートカット実行

Ctrl +Alt+Dキーを同時に押して実行

### キー操作でスッキリした!

**デスクトップ操作関連**

| | |
|---|---|
| ●メニューを開く | [Alt]＋[F1] |
| ●プログラムを切り替える | [Alt]＋[Tab] |
| ●プログラムを終了する | [Alt]＋[F4] |
| ●ウィンドウ･メニューを開く | [Alt]＋スペース |
| ●ウィンドウを最大化する | [Alt]＋[F10] |
| ●ウィンドウの最大化を解除する | [Alt]＋[F5] |
| ●ウィンドウを最小化する | [Alt]＋[F9] |
| ●ウィンドウのサイズを変更する | [Alt]＋[F8] |
| ●デスクトップのみを表示する | [Ctrl]＋[Alt]＋D |

**入力操作関連**

| | |
|---|---|
| ●日本語入力の切り替え | [半角/全角] |
| ●コピー | [Ctrl]＋C |
| ●切り取り | [Ctrl]＋X |
| ●貼り付け | [Ctrl]＋V |
| ●元に戻す | [Ctrl]＋Z |

**アプリ操作関連**

| | |
|---|---|
| ●実行ダイアログの表示 | [Alt]＋[F2] |
| ●新たなウィンドウの表示 | [Ctrl]＋N |
| ●文書の保存 | [Ctrl]＋S |
| ●WEBブラウザの更新 | [F5] |
| ●WEBブラウザの全画面表示 | [F11] |
| ●WEBブラウザの戻る･進む | [Alt]＋左右矢印キー |

**ファイル操作関連**

| | |
|---|---|
| ●ファイル名を変更する | ファイルを選択して[F2] |
| ●ゴミ箱に入れる | ファイルを選択して[Delete] |
| ●ゴミ箱に入れずに削除 | ファイルを選択して[Shift]＋[Delete] |

**終了操作関連**

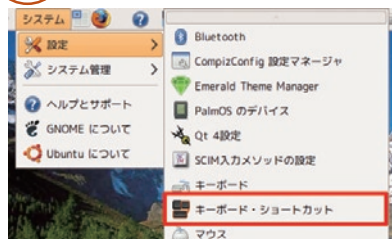
| | |
|---|---|
| ●ログアウトする | [Ctrl]＋[Alt]＋[Delete] |
| ●X Windowの強制再起動 | [Ctrl]＋[Alt]＋[Backspace] |
| ●CUIモードに切り替える | [Ctrl]＋[Alt]＋[F1] |

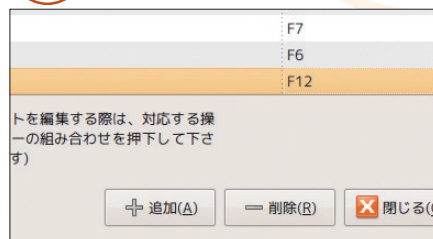
# B●標準ショートカットは不便➡独自のショートカットを設定!!

## 標準の機能で独自ショートカットを設定する

### Ubuntu標準のパネルに項目を追加する

FirefoxやGimpなど普段よく使うアプリケーションをあまり使わないファンクションキーに割り当てておけば、ファンクションキーだけで瞬時に起動できる。ここでは、キーボード・ショートカットをカスタマイズしてみよう。

### ①メニューから起動

システム＞設定＞キーボード・ショートカットで設定画面を起動しよう

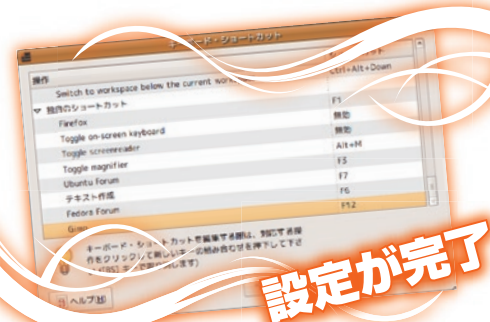
### ②追加を選択

画面下部の「追加」ボタンをクリックする

### ③コマンドを入力する

名前(任意)とコマンドを入力し、「適用」ボタンをクリックする

### ④キー操作を登録する

F12

追加したショートカットキーの行のショートカット部分をクリックして、登録したいキー操作を行う

キーボード・ショートカットの画面。デフォルトのキー操作と追加したキー操作が一覧表示されている

## さらに詳細な設定を行う

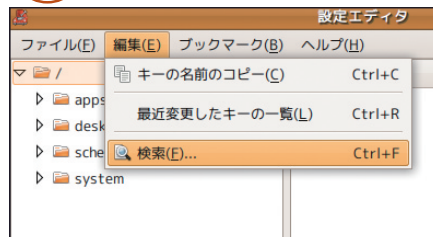
### gconf-editorならより詳細な設定が可能

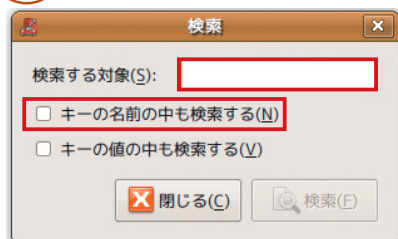
キーボード・ショートカットは、gconf-editorという設定プログラムを使うと、さらに詳細なカスタマイズが可能になる。検索機能を使ってキーの割り当ての重複を確認することも可能だ。

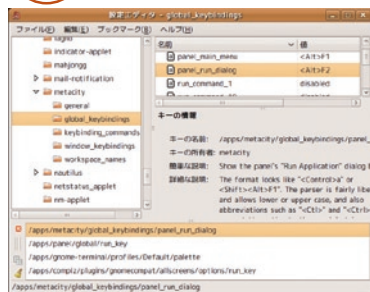
gconf-editor
作者名●The GNOME Project
URL●http://www.gnome.org/

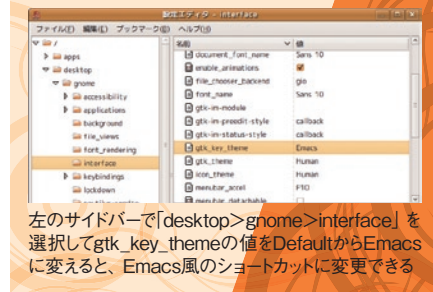
### ①実行ダイアログを起動

まずAlt+F2キーを押下して、アプリケーションの実行ダイアログを表示。gconf-editorと入力し、実行する

### ②メニューから「検索」

gconf-editorのメニューの「編集」で「検索」を選択し、検索窓を表示する

### ③Fキーを検索する

検索窓に目的のキーの名前を入力し、キーの中身も検索するにチェックを入れて、検索ボタンを押す

### ④キーの割り当てが表示

割り当てられた項目が下部にリストアップされる。右側の値をクリックすれば変更も可能

### 応用

左のサイドバーで「desktop>gnome>interface」を選択してgtk_key_themeの値をDefaultからEmacsに変えると、Emacs風のショートカットに変更できる

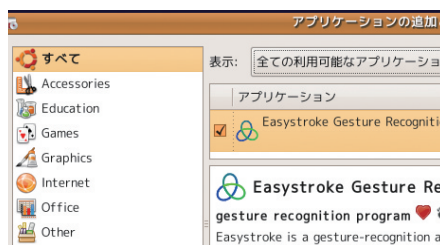
# C●マウスでショートカットを操作➡Easystrokeを使え

## Easystrokeを導入する

### 「追加と削除」から Easystrokeを導入

Easystroke というソフトを使うと、マウスの中ボタンで登録した形状をなぞることで、キーボード・ショートカットで登録したアプリケーションを起動することができる。Ubuntuなら追加と削除で追加できるが、ここでは日本語化された最新版を入れてみよう。

Easystroke
作者名●Tom Jaeger
URL●http://easystroke.wiki.sourceforge.net/

### 追加と削除でインストール

すべての利用可能なアプリケーションを選び、easystrokeで検索して追加しよう

### 最新版はここから入手

最新版のバージョン0.4.4のUbuntu用パッケージは、下記のサイトから入手できる

http://sourceforge.net/projects/easystroke/

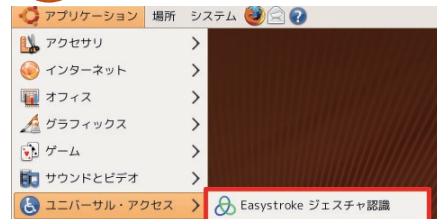
## Easystrokeの起動と設定

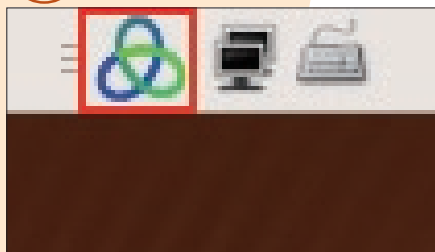
### マウスジェスチャで アプリを速攻起動

Easystrokeでショートカットキーを実行するには、事前にキーボード・ショートカットで登録しておかなければならない。その上で設定画面を開き、該当するショートカットキーと、実行したいストロークを登録しておく必要がある。少々手間はかかるが、マウスジェスチャだけでアプリケーションの起動ができるようになるのは魅力だ。

### ① ブラウザ起動の ショートカットキーを登録

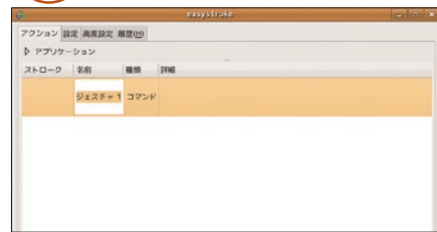
Easystrokeを利用するには、キーボード・ショートカットでキー操作を登録しておく必要がある。ここでは、ブラウザの起動をCtrl+Zキーに登録している

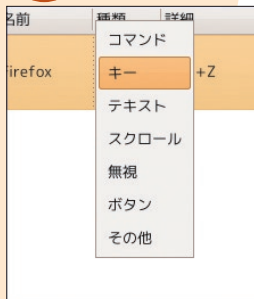
### ② Easystrokeを メニューから起動

「アプリケーション＞ユニバーサル・アクセス＞Easystrokeジェスチャ認識」を選択

### ③ パネルのアイコンを クリックして設定

上部パネルに上のアイコンが表示されるので、これをクリックすると、Easystrokeの設定画面が表示される

### ④ アクションを追加して ジェスチャを登録

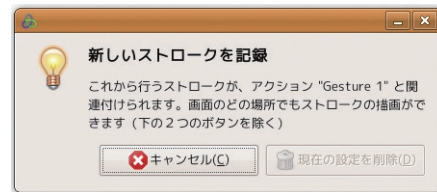
マウスジェスチャを登録するには、まず画面下部にある「アクションを追加」ボタンをクリックする

### ⑤ 新規アクションが 設定画面に表示される

アクションを設定するには、名前・種類・詳細を設定した後、マウスの中ボタンでストロークを記録しておく必要がある

### ⑥ 名称を登録して アクションを選択する

「名前」は、わかりやすい名称を入れればよい。「種類」は、「キー」を選択

### ⑦ キー操作を登録する

「詳細」の部分をクリックすると、上のように、キーの組み合わせ…という表示が出るので、設定したいキーを同時に押下する

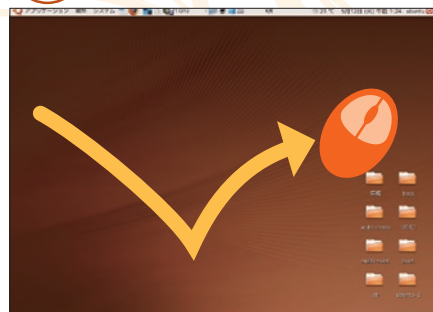
### ⑧ ストロークの設定

ストロークの部分の空欄をダブルクリックして、ストロークを記録する。「新しいストロークを記録」と表示されるので、マウスの中ボタンで好きな形状を記録する

## 9 マウスの中ボタンでストロークを登録

ウインドウ以外の部分で、ストロークを実行する

## 10 登録が終了

これで、登録した形状に近い形で、マウスの中ボタンを押しながら描けば、ストロークのプレビューが表示され、ショートカットキーが実行される。なお、アイコンを右クリックして無効にチェックを入れればEasystrokeを無効にできる

## 11 デスクトップでジェスチャを実行

マウスの中ボタンを押しながら、登録したストロークに近い図形を描く

## 12 プレビューが表示されショートカットが実行される

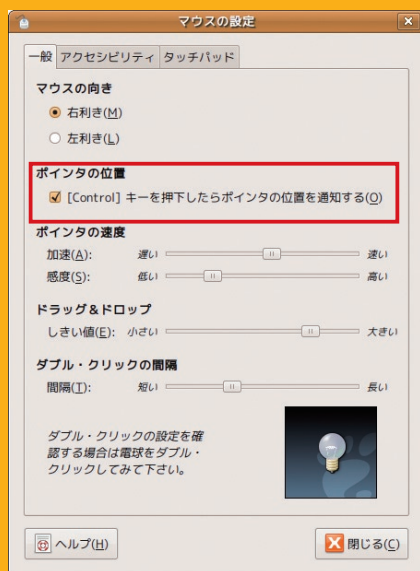
ストロークのプレビューが表示され、ショートカットキーが実行される

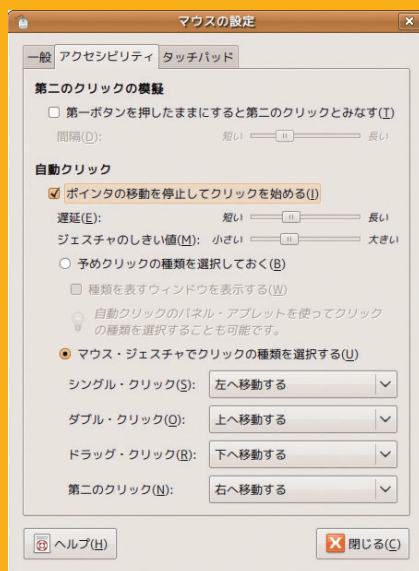
## ジェスチャを無効化

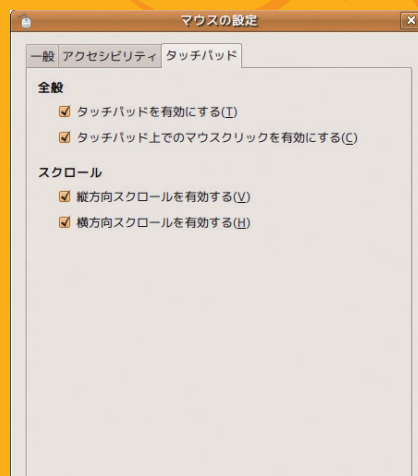
ジェスチャを無効にするにはパネルのアイコンから「無効」にチェックを入れよう

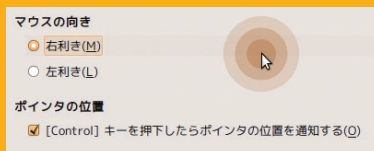
## Column マウスの設定

「システム＞設定＞マウス」を利用して、マウスやタッチパッドのさまざまな挙動を制御することができる。障害者対応の支援機能が中心だが、いろいろと応用もできそうだ。

### ポインタ位置の通知機能

一般のタブには、マウスを左利き用に設定したり（右クリックと左クリックを逆にする）、マウスポインタの位置を通知したり、ダブルクリックの感度調整の機能などがある。マウスポインタの位置を通知する機能を有効にするには、「ポインタの位置」にチェックを入れ、Ctrl キーを押せばいい

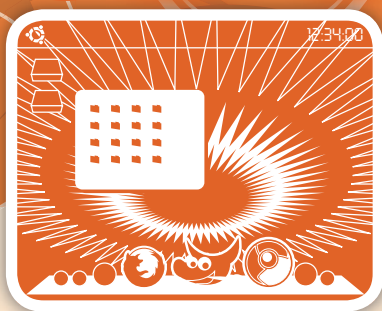
### 自動クリックの設定

アクセシビリティのタブでは、マウスの自動クリックの設定ができる。マウスの移動のみでクリック動作が可能になる

### タッチパッドの設定

タッチパッドのタブでは、タッチパッドの縦方向スクロール・横方向スクロールを有効にできる。Jaunty では、タッチパッドのスクロールで画像の拡大・縮小ができるようになった

マウスの向き
右利き(M)
左利き(L)
ポインタの位置
[Control] キーを押下したらポインタの位置を通知する(O)

Ctrl キーを押すと、マウスの回りに同心円が広がる

System 04

Improve Your Desktop

# Ubuntuの環境を超改善

標準でもそこそこ使えるUbuntuだが、万人向けの環境では満足できないのも事実。自分仕様の環境を作り上げ、快適Ubuntu生活を満喫してしまおう

初心者でも使いやすいという評判通りに、Ubuntuはインストール直後からそこそこ使いやすい環境が整うようになっている。いってみれば、万人向けの無難なデスクトップ環境やアプリがあらかじめ用意されているといったところだ。だが、使い方によってはインストールが必要になるアプリがあったり、デスクトップが寂しく感じてしまったりという場合もあるだろう。また、古いPCをUbuntu用にしている場合は動作がモッサリしていると感じられるかもしれない。あくまでも標準状態は万人向けの環境なので、かゆいところに手が届かないのは仕方がない。ここでは、標準のUbuntuを自分だけのオリジナル仕様にカスタム化していくテクニックを紹介していくぞ。

**A 日本語環境を整えたい**

「日本語環境セットアップヘルパ」でアプリの一括導入が可能だ

**B デスクトップを便利にしたい**

標準搭載のツールを利用して、デスクトップを便利にしよう

**C ファイル操作を快適にしたい**

「ROX」を使うとサクサクとファイル操作ができるようになるぞ

**D 高機能ランチャで便利に**

UbuntuでもMac風のDockタイプのランチャーを使える

## A●日本語環境を整えたい➡セットアップ・ヘルパを使え！

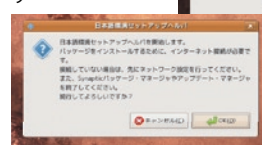
### 日本語環境向けアプリを一気に導入

AdobeReaderや日本語フォントなど、日常の使用を便利にするようなソフト類を簡単にインストールできるのが「日本語環境セットアップヘルパ」だ。それぞれのソフトを個別にインストールするよりも、はるかに手間を省けるのは間違いないぞ。

### ① セットアップヘルパを起動

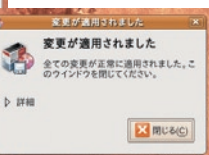
「システム」→「システム管理」から「日本語環境セットアップ・ヘルパ」を起動しよう

### ② パスワードを入力

パスワードを入力し、OKをクリック。ネットへの接続を確認して「OK」をクリックしよう

### ③ 入れたいアプリを選択

好みのアプリを選択して「OK」をクリック。インストール可能なアプリは4種類に分類されているぞ

### ④ インストールを実行

これで自動的にインストールが行われる。AdobeReaderはメニューからインストーラを起動する必要があるので注意

# B●デスクトップを便利にしたい➡パネル機能を使いこなせ!

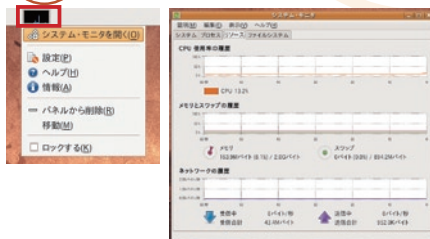
## パネル項目の追加をマスター

### Ubuntu標準のパネルに項目を追加する

Ubuntuのデスクトップに欠かすことができないのが「パネル」だ。標準状態ではパネルにはメニューや時計が表示されているが、自分好みの機能を追加することもできる。設定方法をマスターすれば、Ubuntuのデスクトップが一段と快適になることは間違いない。

### ① 追加する項目を選択

画面上下のバーを右クリックし「パネルへ追加」を選択。追加したい項目を一覧から選ぼう

### ② パネル項目の詳細画面を表示する

パネル追加された項目を右クリックしてメニューを開けば、詳細画面を表示することも可能だ

### ③ パネル項目の設定を変更する

「設定」からはパネルに配置した項目の表示設定を変更することもできる

### ④ 項目の削除も右クリックから

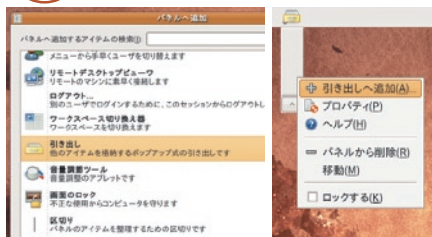
一度追加したパネル項目を削除したい場合も右クリックメニューから操作する

パネルの設定が完了!

## パネルの便利機能を使う

### 引き出しとアプレットとソフトランチャを使う

パネルにはランチャ機能も搭載されている。いちいちメニューを展開しなくても、お気に入りのアプリを選択してワンクリックで起動できるようになるぞ。また、「引き出し」を使えば混雑しがちなパネル項目を整理することもできる。多数の項目をパネルに登録したい場合は試してみるとよい。

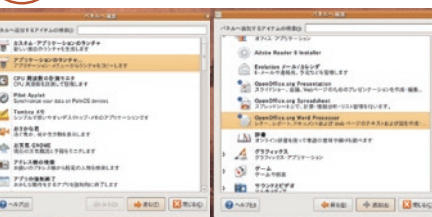
### ① 引き出しをパネルに追加する

パネル項目の一覧から「引き出し」を追加しよう。引き出しのアイコンを右クリックして項目を追加する

### ② パネル項目を引き出しに配置する

パネルに追加可能な項目であれば何でも引き出しに収納することができるぞ

### ③ アプリのアイコンを追加する

引き出しに収納したパネル項目のサイズを変更できる。また、引き出しのアイコン自体も変更可能

### ④ 追加したいアプリを選ぶ

「アプリケーションのランチャ」を選択して、アプリを指定すればパネルから直接アプリが起動できる

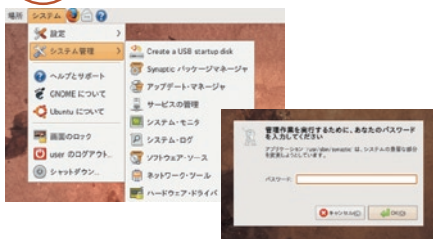
引き出し・ランチャの設定が完了!

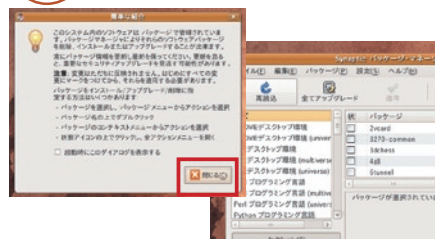
# C●ファイル操作を快適にしたい➡軽量ファイルブラウザROXを使う!

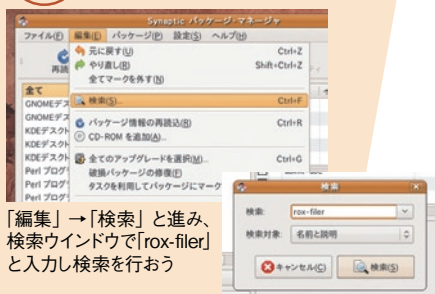
## ROXをインストール

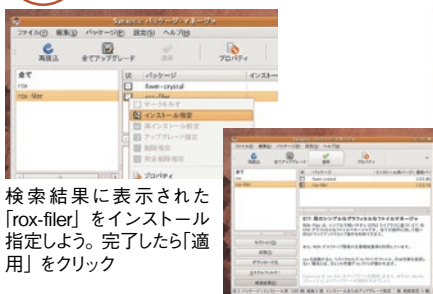
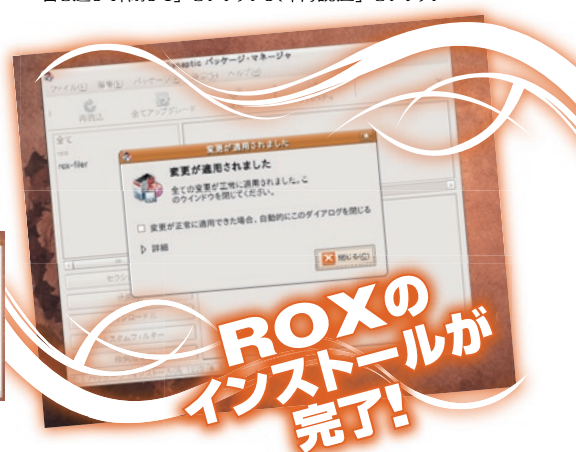
### SynapticでROXを導入

古いPCを使っているなら「ROX」を導入してみよう。ROXはファイル操作を行うためのファイルブラウザというアプリだ。標準で導入されているものは古いPCでは動作が遅いので、ROXに入れ替えることでキビキビとした動作をしてくれるようになるぞ。

### ①Synapticを起動

ROXはSynapticを使って導入する。Synapticを起動してパスワードを入力しよう

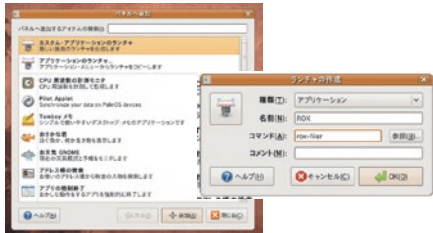
### ②アプリの一覧を更新

初回起動時にはSynapticの紹介メッセージが出る。軽く目を通して「閉じる」をクリックし、「再読込」をクリック

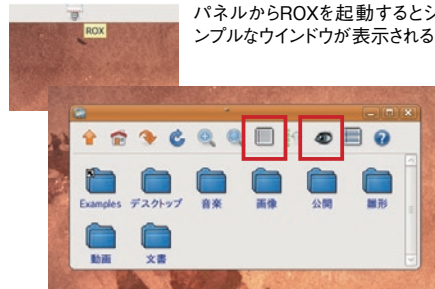
### ③ROXのパッケージを検索

「編集」→「検索」と進み、検索ウインドウで「rox-filer」と入力し検索を行おう

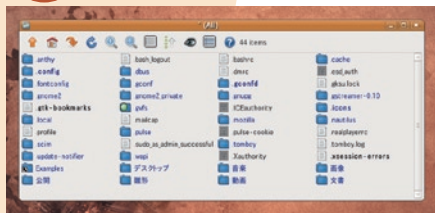
### ④rox-filerをインストール指定

検索結果に表示された「rox-filer」をインストール指定しよう。完了したら「適用」をクリック

## ROXを使いやすく設定する

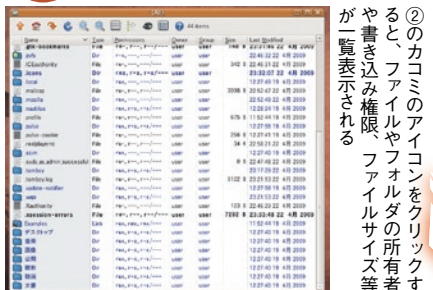
### ROXの使い方をマスターする

ROXは英語版のアプリだが、使い方は難しくないので安心して欲しい。基本的にはマウスで操作できるが、表示方法の変更には癖があるので、一通り試しておくのがおすすめだ。なお、起動しやすいようにパネルにランチャを登録しておくと便利に使えるぞ。

### ①パネルにROXを登録する

ROXの起動用アイコンをパネルに追加しておこう。画面のように入力して「OK」をクリック

### ②メインウインドウを表示

パネルからROXを起動するとシンプルなウインドウが表示される

### ③ファイル表示を有効にする

②で示したカコミのアイコンをクリックすると、フォルダだけでなくファイルも表示される。右クリックでサムネイル表示の有無を変更できる

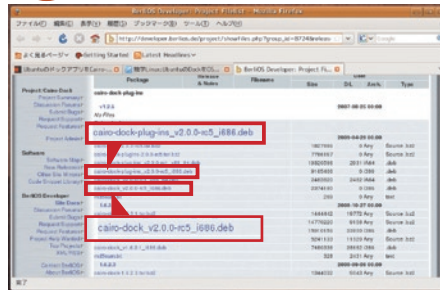
### ④詳細情報の表示を有効にする

②のカコミのアイコンをクリックすると、ファイルやフォルダの所有者や書き込み権限、ファイルサイズ等が一覧表示される

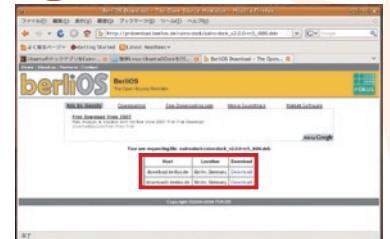
# D●Mac風のDockを使いたい➡Cairo-Dockを使う!

## deb形式のパッケージからインストールする!

### Cairo-Dockをインストールする

「Cairo-Dock」はMacOS風のDockをLinuxで実現するアプリだ。deb形式のパッケージを公式サイトからダウンロードしてくる必要があるが、インストールは簡単。2つのパッケージをインストールする必要があり、片方だけでは正常に動作しないので注意して欲しい。

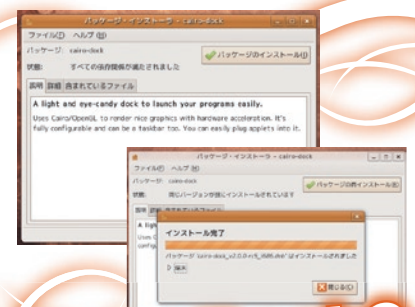
### ①2つのパッケージを確認

カコミ部分のリンクをクリックしてダウンロードページにアクセス

### ②パッケージをダウンロード

ダウンロード元のサイトを選べるが、どちらを選択しても構わない

### ③PCにファイルを保存

パッケージは一旦PC上に保存しておこう。同様の手順でふたつのパッケージをPCに保存する

### ④パッケージのインストール

パッケージのアイコンを右クリックして「GDebi Package…」を選択してインストールを行う

## テーマを変更してさらにMacらしく!

### Cairo-Dockのテーマを変更する

Cairo-Dockにはテーマ機能が搭載されており、Dock自体のデザインやアイコンを変更できる。標準のテーマはオリジナルの物なので、MacOS風にしたい場合はテーマを変更しよう。好みのテーマを選択するとネットから自動でダウンロードしてくれるので楽チンだ。

### ①Cairo-Dockを起動

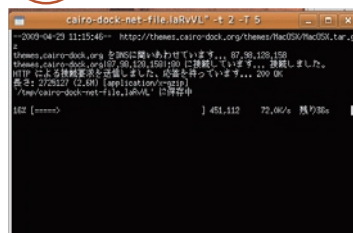
「…… with OpenGL」を起動しよう。エラー発生時はもう一方を試すとよい

### ②Dockが表示される

Cairo-Dockが起動すると下部にDockが表示される。画面効果が有効だと演出もハデになる

### ③Dockを右クリックしてテーマを変更する

Dockを右クリック→「Cairo-Dock」→「テーマ管理」とすすみ、テーマを選択したら「OK」をクリック

### ④自動的にテーマを適用

コマンドウインドウが表示され、自動的にテーマをダウンロードしてくれるぞ

Column

Netbook Remix in USB memory

# Eee PC＋極小USBメモリで Ubuntu 9.04 Netbook Remixを使おう

**ネットブックにはDVDドライブがなく、OSのインストールが面倒。しかし、USBポートとmicroSDメモリカードを活用すれば簡単にLinuxを導入することができるのだ**

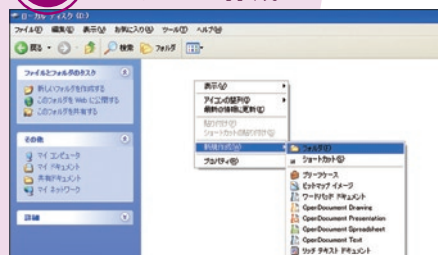
今、最も「旬」なPCとデバイスと言えば、ネットブックPCとフラッシュメモリが挙げられるだろう。USBメモリやSSDだけではない。携帯電話などでよく使われるmicroSDメモリカードも、高速・大容量化されたうえ、価格も非常に安くなった。

このmicroSDカードへLinuxをインストールし、ネットブックで活用してみよう。ネットブックにはDVDドライブが標準装備されていないが、インターネット環境さえあればDVDドライブが無くても、簡単にmicroSDメモリへLinuxをインストール可能だ。

今回は、今やネットブックの代名詞とも言えるASUS社の「Eee PC 1000HE」に、トランセンド社のmicroSDHCカード8GB（Class6）を組み込んだバッファローの超小型USBメモリ「USB2.0/1.1フラッシュアダプター」を使用してテストした。

通常のUbuntuとは一風変わった外観の「Netbook Remix」版。USBメモリへのインストールや起動も、簡単に行える

## Netbook RemixのインストールはWindows XPから

### ① Eee PCのDドライブにフォルダを作成

デスクトップの「マイコンピュータ」を開き、Dドライブで右クリック。「新規作成」から「フォルダ」を作成する

### ② フォルダ名は半角英数字で

作成したフォルダ名は、既定の「新しいフォルダ」でなく、「Ubuntu」などの半角英数字に必ず変更しておく

### ③ インターネットへ接続してイメージをダウンロード

Ubuntuの公式サイトを開き、「Ubuntu 9.04 Netbook Remix」を、作成したフォルダにダウンロードする
URL http://www.ubuntu.com/

### ④ Image Writerをダウンロードする

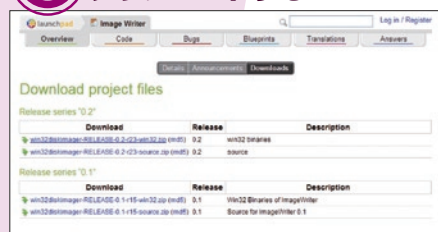



Image Writerの配布ページから、「win32diskimager-RELEASE-0.2-r23-win32.zip」を入手
URL https://launchpad.net/win32-image-writer/+download

### ⑤ ダウンロードしたZIPファイルを展開する

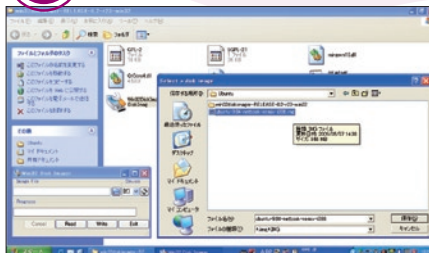
Image WriterのZIPファイルを右クリックし「すべて展開」をクリック。ZIP解凍ウィザードではすべて「次へ」を押す

### ⑥ microSDをアダプタへ装着しEeePCへ接続

microSDは1GB以上の容量であればOK。2GB以上のmicroSD/SDHCでも1GBしか使えないため、1GBのもので十分だ

## ⑦ Image Writerを起動する

Image Writerを起動。このとき、ウィンドウの右側にmicroSDのドライブ名が表示されているのを確認する

## ⑧ Netbook RemixのIMGファイルを選択

「Image File」欄右横のボタンをクリックし、ダウンロードしたNetbook RemixのIMGファイルを選択する

## ⑨ microSDへイメージを書き込む

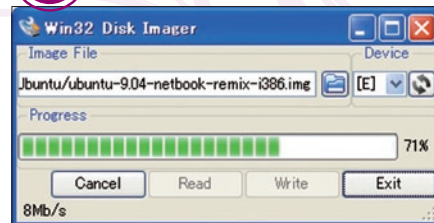



Image Writerの「Write」ボタンをクリックする。警告画面は「Yes」をクリックするとmicroSDへ書き込みが開始される

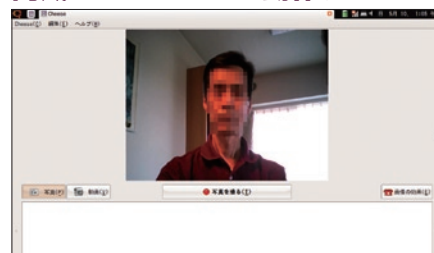
# microSDへインストールしたNetbook Remixを起動

## Windows XPを再起動し[Esc]キーを連打!

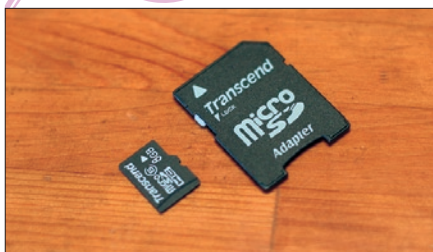
Windowsを再起動して[Esc]キーを連打すると、BIOSのブートマネージャが起動する(画面は機種により異なります)。上記の例では、「Generic(USB)」を選択する

## Ubuntu 9.04 Netbook Remixが起動

インストールしたmicroSDから「Ubuntu 9.04 Netbook Remix」が起動し、専用デスクトップが表示される

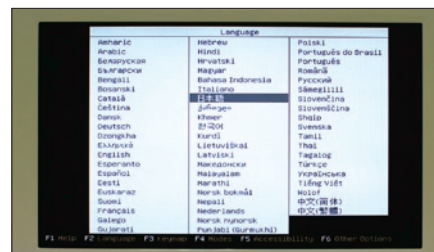
## Eee PCの内蔵Webカメラも動作する

Ubuntu 8.10ではすんなり動作しなかった内蔵Webカメラも動作するし、microSDへのファイル保存も可能だ

# インストール済みmicroSDはSDスロットからも起動する

## microSDをSDアダプタへ装着

USBアダプタからmicroSDを外してSDメモリカードアダプタへ装着し、Eee PCのSDカードスロットへ挿入する

## Eee PCを再起動しBIOS画面へ

Eee PCを再起動し、BIOSブートマネージャを表示。ここで「Single Flash Reader」を選択すればよい

## 起動時に「日本語」を選択

Ubuntu 9.04 Netbook RemixはLiveモードなので、言語メニューで「日本語」を選択すれば、日本語環境で起動する

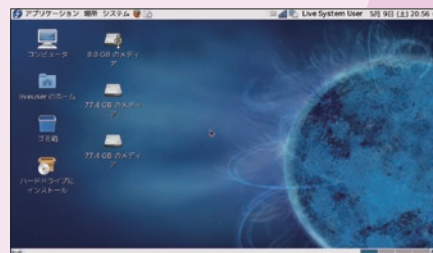
# Fedora 10もmicroSDからLiveモードで起動できる

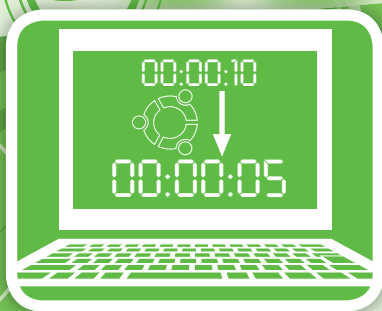
## LiveUSB Creatorをダウンロードする

LiveUSB Creatorの配布サイトより、「liveusb-creator-3.6.5.zip」を入手。手順はImage Writerと同じだ
URL https://fedorahosted.org/liveusb-creator/

## LiveUSB CreatorをWindowsから起動

ZIPを解凍してLiveUSB Creatorを起動し、Download Fedoraから「Fedora10 (i686)」を選択。「Create Live USB」をクリックしよう

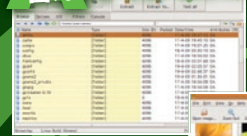
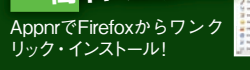
## microSDからFedora10をLive起動

インストールが終わったら、再起動+[Esc]キー連打でブートマネージャを開き、起動デバイスを選択。microSDからFedora10が起動する

Do your work faster

# 便利ツールで作業効率UP!

**書庫の解凍・作成や画像の閲覧やファイルのリネームなど日常的な作業に役立つ実用的なツールを追加しよう！**

GNOMEデスクトップ環境には機能性に優れた各種ツールが標準でインストールされている。しかし、「もうちょっと機能があれば」、「もう少し動作が速ければ」、と思うこともある。

ツールに機能が不足している場合は代わりにコマンドライン端末から作業することで解決できることも多いが、やはりGUIで操作できるほうが使いやすい。

この特集では標準のツールよりも機能豊富なものや動作速度が良好なツール及びGUIで使える便利なツールを紹介する。標準ツールの代わりに利用して作業効率を高めてみよう。

## A●高度な書庫ファイルを作成したい➡PeaZipで作成

### PeaZipアーカイバ

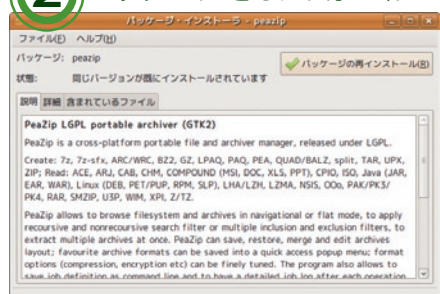
PeaZipはZIP、7Z、GZ、BZ2、TARなど主要な書庫形式への圧縮、81種類の書庫形式の解凍に対応したアーカイバ。

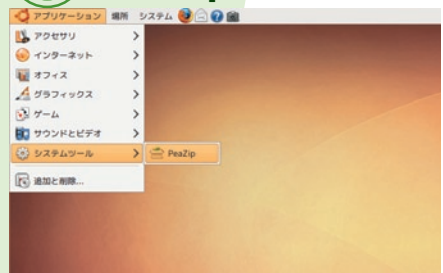
書庫の圧縮率、ファイルサイズでの分割、書庫の暗号化、自己解凍書庫などのオプションを指定して書庫ファイルを作成可能だ。

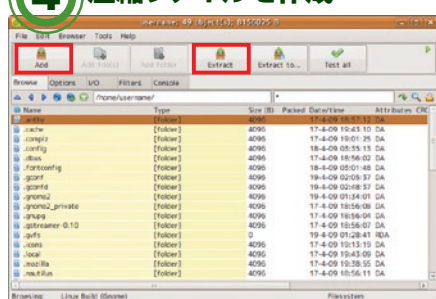
PeaZip
作者名●Giorgio Tani
URL●http://peazip.sourceforge.net/

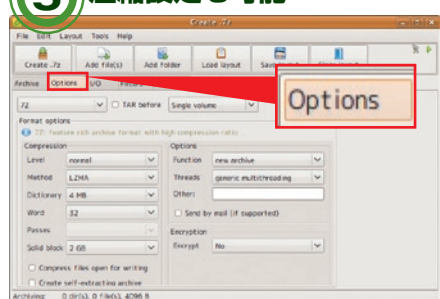
### ① サイトからダウンロード

http://peazip.sourceforge.net/からディストリビューションのパッケージをダウンロード

### ② パッケージをインストール

ダウンロードしたパッケージをダブルクリックして起動したパッケージインストーラからインストール

### ③ メニューからPeaZipを起動

インストールするとメインメニューの「アプリケーション」→「システムツール」→「PeaZip」から起動できる

### ④ 圧縮ファイルを作成

メニューバーの「Add」ボタンから書庫ファイルを作成。「Extract」ボタンで書庫ファイルを解凍できる

### ⑤ 圧縮設定も可能

書庫ファイル作成画面の「Options」タブで圧縮率や暗号化などの圧縮オプションを設定することができる